

JICの活動の進捗 26年3月期

2026年6月26日

株式会社 産業革新投資機構
Japan Investment Corporation

25年度の活動の進捗

- 2019年以来、JICが、民間ファンドとグループ子会社2社（JIC VGI、JICキャピタル）のファンドに対し、累計約2兆6,005億円の出資約束を行う。（2026年3月末現在）
- 2025年度は、民間12ファンドへ合計745億円の出資約束を実施するとともに、JICキャピタルの2号ファンドに総額約8,000億円の出資を決定。



JAPAN INVESTMENT CORPORATION

民間ファンド

ファンド数 : 60
出資約束総額 : 3,413億円

戦略	ファンド数	出資約束額
VC	55	2,563億円
PE・その他	5	850億円



VENTURE
GROWTH
INVESTMENTS

JIC VGI
(ベンチャー・グロース)

1号 : 1,200億円 (20年9月設定)
2号 : 2,000億円 (23年1月設定)
オポチュニティファンド : 400億円 (23年9月設定)



CAPITAL, LTD.

JIC キャピタル
(ハイアウト・ラージグロース)

1号 : 2,000億円 (20年11月設定)
共同投資ファンド : 9,000億円 (22年10月変更決定)
2号* : **6,000億円** (25年11月設定)
共同投資ファンド : 2,000億円 (25年11月設定)

*2号ファンド（PEF2）は、付随する組合経由の出資も含めた額を記載。

VC、スタートアップ分野

- 「プレシード・シード」から「アーリー」「グロース」まで、成長基盤を築く初期段階から支援を行うとともに、「ディープテック」「ライフサイエンス」「ゴー・グローバル」等を重点分野として取り組む。
- モデルタムシートの公表を通じ、国内のファンドにおける契約内容の改善につながる取り組みを実施。

JIC :

- VCに対して累計58件（JIC VGI : 3件、民間VC : 55件）
 - グロースステージでのリスクマネー供給拡大により、新規上場前の更なる成長を支援。
※25年度: ミネルバ2, GLIN2, NEA19VGE, GA2025
 - 地方に眠る将来性のある経営資源を活用したディープテック・スタートアップの成長を支援。
※25年度: KUC 2号
 - ディープテック領域に注力する海外VCへの投資も実行。 ※25年度: Lux9
- JICの投資先VCからスタートアップに累計1,292件*（累計投資額: 2,555億円）の投資を実行。（JIC持ち分ベース25年12月末）

*VCから投資先が重なる場合は1つとしてカウント

JIC VGI :

- ディープテック・ライフサイエンス領域のスタートアップに対する投資も含めて、新規投資34社（投資額: 約380億円）、累計115社（累計投資額: 約1,519億円）へ投資実行。
7社のIPO、3社のM&A、2社の株式譲渡を実行。（26年3月末時点）
- 投資先企業の成長段階に応じた追加投資を19件実施し、持続的な成長を支援。

PE分野

①大型案件に投資する日本フォーカスのバイアウトファンドへのLP出資

※2026年4月 ポラリス6号、NSSK

②JICC：民間ファンドがリードする案件へのマイノリティ出資への取り組み

③JICC2号ファンドを25年11月に組成

<参考>

*赤字は25/12記者会見以降の変更、追記分

①大型案件に投資する日本フォーカスのバイアウトファンドへのLP出資

目指すべき姿

- 大型案件候補が増加している中、買収者の多様性を確保することにより、大型案件の成立がより進んでいく
- 大型案件が成立していくことにより、ファンドからのEXIT時も含めて大型業界再編につながる例が増加していく

投資対象ファンド

- 大型案件(EV1,000億円以上)を手掛ける意思と能力を持つGPが運用する国内にフォーカスするバイアウトファンド
(ファンドサイズ2,000億円以上を想定)

• LP出資額：最大500億円

②民間ファンドがリードする案件へのマイノリティ出資

目指すべき姿

- 民間ファンドが組合契約上の投資額上限制限で関与できない大型案件に対し、JICCがマイノリティ出資することで、事業会社への支援を可能にする
- 対象はJICCが手掛ける分野（テーマ、事業分野）と重なる案件を想定
 - テーマ：業界再編, 成長投資, 事業再編
 - 事業分野：JICCが注力する9分野
- 投資対象：普通株/優先株
- 金額：ポートフォリオ分散の観点からJICC分500億円以下を想定
- 例：大型カーブアウト
中堅企業のロールアップ

③JICC2号ファンドの組成

1号ファンドの投資が進んでおり、2号ファンドを25年11月に組成

- ✓ メインFund (PEF2) 6,000億円
- ✓ 大型用Fund (PEFJ2) 2,000億円

• JICCが手掛けるテーマ

- 業界再編（投資時,保有中,Exit時）
- 新規産業創出に向けての成長投資
- 事業再編（民間主導案件）

• 対象事業分野 注力5分野+4分野

業界再編/成長投資/事業再編の必要性和案件機会の観点から選定

- 注力5分野（入れ替え実施）
半導体/電子部品、化学、ヘルスケア、輸送機器、ものづくり

➢ その他4分野

素材、モビリティ、IT、インフラ（社会/通信/エネルギー関連等）

• 事業会社や民間ファンドとの共同投資を積極的に活用

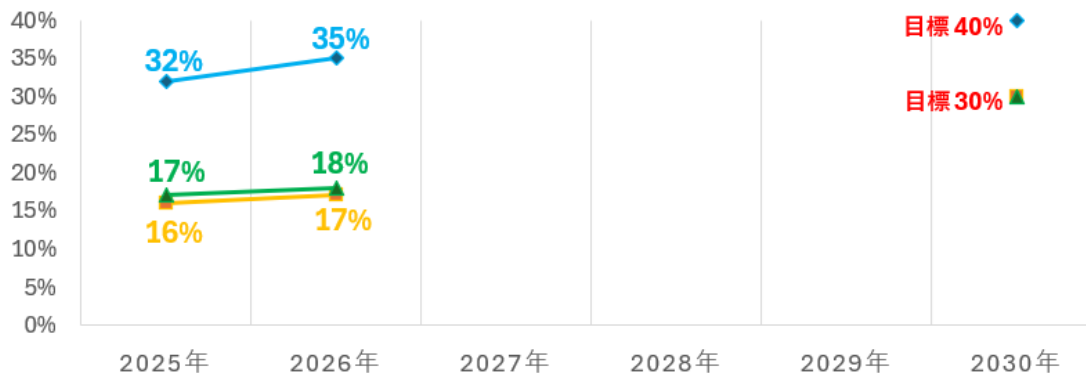
• JICCの投資額規模の想定

- JICCリード：1,000億円以下
- 民間リード：500億円以下
- 上記を超える投資はPEFJ2を利用

JICにおける女性活躍の推進

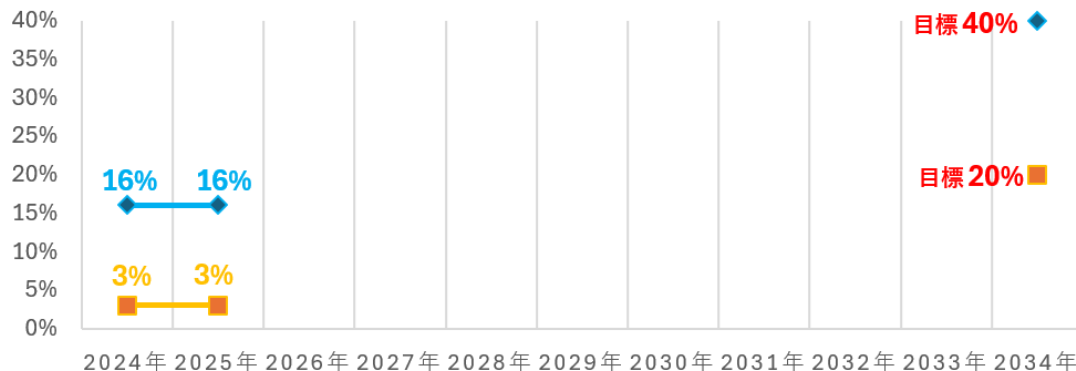
・ JICグループの現状（2026年5月末時点）

- ◆ グループ全体における女性比率
- グループ全体におけるフロント職員の女性比率
- ▲ グループ全体における経営あるいは投資活動における意思決定に関わる者の女性比率



・ 投資先モニタリング結果（2025年12月末時点）

- ◆ 国内投資先ファンド全体における女性投資担当者の割合
- 国内投資先ファンド全体における女性意思決定者を含むファンドの割合



重点投資分野の過去の取組と振り返り

重点投資分野



国内投資・ イノベーションの 好循環創出

我が国産業の国際競争力強化に向けて、持続的な成長が必要であり、長期かつ大規模なリスクマネー供給を必要とする事業分野であって、国内投資及びイノベーションの好循環に資する事業活動を支援



スタートアップの 創出・育成

経済成長とイノベーションの担い手であるスタートアップの創出・育成の加速及びグローバルユニコーンの創出に向けて、スタートアップエコシステムの発展促進に資する事業者を支援



地方に眠る 経営資源の活用

高い収益やイノベーションの創出が期待できる技術が多数あるにもかかわらず、リスクマネー不足や人材確保等の課題から、十分に活用されていない地方の大学発スタートアップや中堅企業等の資金需要に対応



市場・ビジネス環境の 変化に対応する 事業再編の促進

昨今のビジネス環境の変化に事業再編や新陳代謝を通じて対応することができる事業分野において、中長期の成長投資や業界再編等を通じて産業競争力の強化を支援

ディープテック
(20.6)

ライフサイエンス
(20.6)

クライメートテック/
GX対象領域拡大
(21.11/24.11)

オープンイノベーション
(21.9)

シード・プレシード
(21.10)

アーリー
(25.5)

グロース
(20.6)

セカンダリー
(22.3)

Go Global/今後の方針
(22.9/25.9)

アフターマーケット (VGI)
(23.9)

産学連携
(2020.9)

カーブアウト・ロールアップ
(21.6)

エンゲージメント
(24.11)

大型案件に投資する
バイアウトファンド
(25.5)

重点4分野を中心に、政策的意義があり、かつ、民間リスクマネーが不足している分野について調査を行い、JICが取り組むべき「投資テーマ」を順次、設定してきた。

投資テーマ	振り返り	課題
ライフサイエンス (LS)	<ul style="list-style-type: none"> 日本発創薬シーズをもとに人材・市場・戦略等を総合プロデュースできるVCの創設に関与 VGIによるLSアーリー枠運用 	<ul style="list-style-type: none"> 国内市場中心のスタートアップはExit苦戦 (IPO時時価総額100億円問題)
ディープテック (DT)	<ul style="list-style-type: none"> 大学系VCに限らずDT中心の新興VCに多数投資 IT系VCからのDTスタートアップ投資促進 VGIによるDTアーリー枠運用 	<ul style="list-style-type: none"> ミドル以降の資金調達 グローバル展開支援 プロデューサー役VC
グロース	<ul style="list-style-type: none"> 既存VCの追加投資ビークル設立支援 新興の国内グロースVC支援 海外VCの呼び込み 	<ul style="list-style-type: none"> 国内グロースGP不足 (成功事例蓄積中) グローバルグロースファンドが投資対象にできる成長期待案件の増加 クロスオーバー投資家不足
産学連携	<ul style="list-style-type: none"> JICの投資ガイドラインに適合するVCは積極的に対応済み 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の大学系ファンドは機関投資家視点では投資しにくいストラクチャー
カーブアウト・ロールアップ	<ul style="list-style-type: none"> 新興運用者、共同投資ビークルを支援 	<ul style="list-style-type: none"> 同戦略を中心にするプレーヤー不足
オープンイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> 投資先海外スタートアップとの連携は進む 	<ul style="list-style-type: none"> 事業会社による民間VCへの継続出資
シード・プレシード	<ul style="list-style-type: none"> 一定規模 (ファンドサイズ40億円) 以上を目指すVCを複数支援 	<ul style="list-style-type: none"> Day one globalなどスタートから大きな挑戦を後押しするVC
クライメートテック	<ul style="list-style-type: none"> 同分野を手掛けるVCを支援 	<ul style="list-style-type: none"> 対象となるプレーヤー少ない
セカンダリ	<ul style="list-style-type: none"> VGIによるセカンダリ投資 (プライマリと同時) 新興セカンダリ運用者を複数支援 	<ul style="list-style-type: none"> グロースVCによるセカンダリ取得の増加
Go Global	<ul style="list-style-type: none"> 23-25年のテスト期間を経てエコシステムへの貢献を確認し、25年に拡大 (グロース、DT) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本エコシステムに意味ある貢献期待可能なトップティアVC開拓と交渉の継続
エンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> 新興運用者を支援 	
大型案件バイアウト	<ul style="list-style-type: none"> 2ファンド出資約束済み JICCとの共同投資の提案増加 (国内/外資とも) 	<ul style="list-style-type: none"> JICCとの共同投資については個別案件毎に政策意義を議論し、選別的に対応

	振り返り	課題	今後
① 資金供給	<ul style="list-style-type: none"> 民間で資金が届きにくい領域（ディープテック、グロース等）に重点投資し、リスクマネー供給を量・対象ともに拡大 民間ファンドへのLP投資を通じ、市場に対する呼び水機能発揮、新興VCへの投資を通じプレイヤーの多様性拡大 	<p>スタートアップ資金調達総量は横ばい</p> <ul style="list-style-type: none"> 外的要因：22年を境にスタートアップのIPO時の時価総額見込みが半減。 グロースステージ投資が停滞（評価高止まり） 民間VCの資金調達の遅れ（24年以降、金融機関・事業会社は自社VCや二人組合の流れや事業戦略変更等から民間VC投資は停滞）から、民間資金マッチングを基本にするJICの資金供給額は大きく増加せず 	<ul style="list-style-type: none"> 資金供給量の拡大とスタートアップエコシステム強化は表裏一体 成長分野（Go Global / DT / LS/AIアプリケーション等）でのスタートアップの活躍を期待 多様なGPによる多様な視点での投資と多様な支援が期待できるエコシステムへ <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ディープテック分野のプロデュース者役VCの探索・支援 大きな成長をサポートできるグロースVC <p>→ 「スタートアップ」と「VC/グロースファンド」の両面から市場の厚みを拡大</p>
② スタートアップエコシステム強化	<ul style="list-style-type: none"> GPに対するガバナンス改善、公正価値評価導入等を通じ、国内VC市場の制度・慣行の高度化を推進 初号ファンド支援や海外VC連携により、プレイヤー層の拡大・多様化を推進 機関投資家から受託したVCの数は20を超えるレベルに 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の機関投資家資金を継続的に受託できるレベルのリターン実績まで到達したGPはいまだ少数 グロースステージでのスタートアップサポートのPlay bookを持つ国内プレイヤー不足 キャピタリストが持つPlaybookの多様性拡大（経歴の多様性、外部アドバイザーの活用も含めて） 	
② 産業政策との整合性	<ul style="list-style-type: none"> 投資は一貫して産業競争力強化・政策課題への貢献を軸に実行（直接投資、ファンド投資共通） スタートアップ投資では、DT、LS等に重点投資し、長期・高リスク領域への資金供給を実現 政策効果の期待をクリアし、かつ収益が見込める民間ファンドへの投資の組み合わせによりバランス 	<ul style="list-style-type: none"> JICC： 案件大型化、民間からの共同投資提案増加を受け、事業会社/ファンドとの共同投資スキームの中で、政策課題対応可能な枠組みを個別に組んでいく高い難易度 LP投資： 既存のVCでは対応できない課題への取り組み（Playbookの問題、プロデューサー不在の問題） 	<ul style="list-style-type: none"> 政策当局との対話を通じて、公的投資機関として対応可能な政策課題解決支援に取り組んでいく <p>例) 大型産業再編 中堅企業 成長17分野 デュアルユース スタートアップM&A 等</p>

パフォーマンスと振り返り

【ファンド投資の概況】

- ポートフォリオ構築開始（2020年9月～）から5年経過し、管理会計上は初期的な成果が見え始める段階
- 民間ファンド：順調に評価増が進展（個別案件ベースでは評価損・償却済み多数）
- JIC子会社：VGI グロースステージ/上場案件で苦戦するもディープテック/ライフサイエンスではアーリーを中心に大きな成長を期待できる案件に取り組み中
 JICC 実投資開始は2023年であり評価は時期尚早

(2025年12月末時点)

	投資決定 件数	出資約束額	払込済金額	進捗率	倍率（対払込済額）			ネットIRR
					分配金 (DPI)	NAV (RVPI)	分配金 +NAV (TVPI)	
合計	60	25,428億円	13,611億円	53.5%	0.01倍	1.02倍	1.03倍	1.9%
民間ファンド	53	2,836億円	1,729億円	61.0%	0.04倍	1.29倍	1.33倍	14.2%
VC	50	2,246億円	1,346億円	59.9%	0.05倍	1.26倍	1.31倍	13.2%
PE・その他	3	590億円	383億円	65.0%	0.01倍	1.39倍	1.40倍	17.7%
JIC子会社	7	22,592億円	11,882億円	52.6%	0.01倍	0.98倍	0.99倍	▲ 0.9%
VGI	3	3,600億円	1,562億円	43.4%	0.04倍	0.92倍	0.96倍	▲ 1.5%
JICC	4	18,992億円	10,320億円	54.3%	0.00倍	0.99倍	0.99倍	▲ 0.7%

* 決算期末到来ファンドを除き、NAVの95%以上が公正価値評価（監査の有無を問わず）ベース

【民間ファンドへの投資の概況（JICによるコミット年度別に集計）】

- 投資後経過期間が長くなるほど運用成果が倍率に現れている状況
- 投資先企業レベルの損益迄見ると
 - 好調：創薬日本シーズの米国起業、シード・アーリー期のソフトウェア、バイアウト、米国AI
 - 不調：レートステージ、上場案件

(2025年12月末時点)

	投資決定 件数	出資約束額	払込済金額	進捗率	倍率（対払込済額）			ネットIRR
					分配金 (DPI)	NAV (RVPI)	分配金 +NAV (TVPI)	
民間ファンド	53	2,836億円	1,729億円	61.0%	0.04倍	1.29倍	1.33倍	14.2%
(2020年度)	4	147億円	144億円	97.6%	0.17倍	2.11倍	2.27倍	22.8%
(2021年度)	8	710億円	624億円	87.8%	0.01倍	1.31倍	1.32倍	11.4%
(2022年度)	16	709億円	470億円	66.3%	0.08倍	1.26倍	1.34倍	14.5%
(2023年度)	10	475億円	220億円	46.2%	0.01倍	1.04倍	1.05倍	4.6%
(2024年度)	10	600億円	253億円	42.2%	0.01倍	1.06倍	1.07倍	10.7%
(2025年度)	5	193億円	18億円	9.4%	0.00倍	0.90倍	0.90倍	▲ 18.3%

- * 上記2025年度は2025年4-12月の集計。2026年1-3月に7件550億円を出資約束し25年度合計は12件745億円
- * 個別のファンドへの出資約束額を増額した場合、初回の出資約束を行った年度に含めて集計
- * 外貨出資約束額の円貨換算は、円貨実払込額 + 未使用出資約束額 × 期末為替レート

【民間VCファンドへの投資の概況（ビンテージイヤー別集計）】

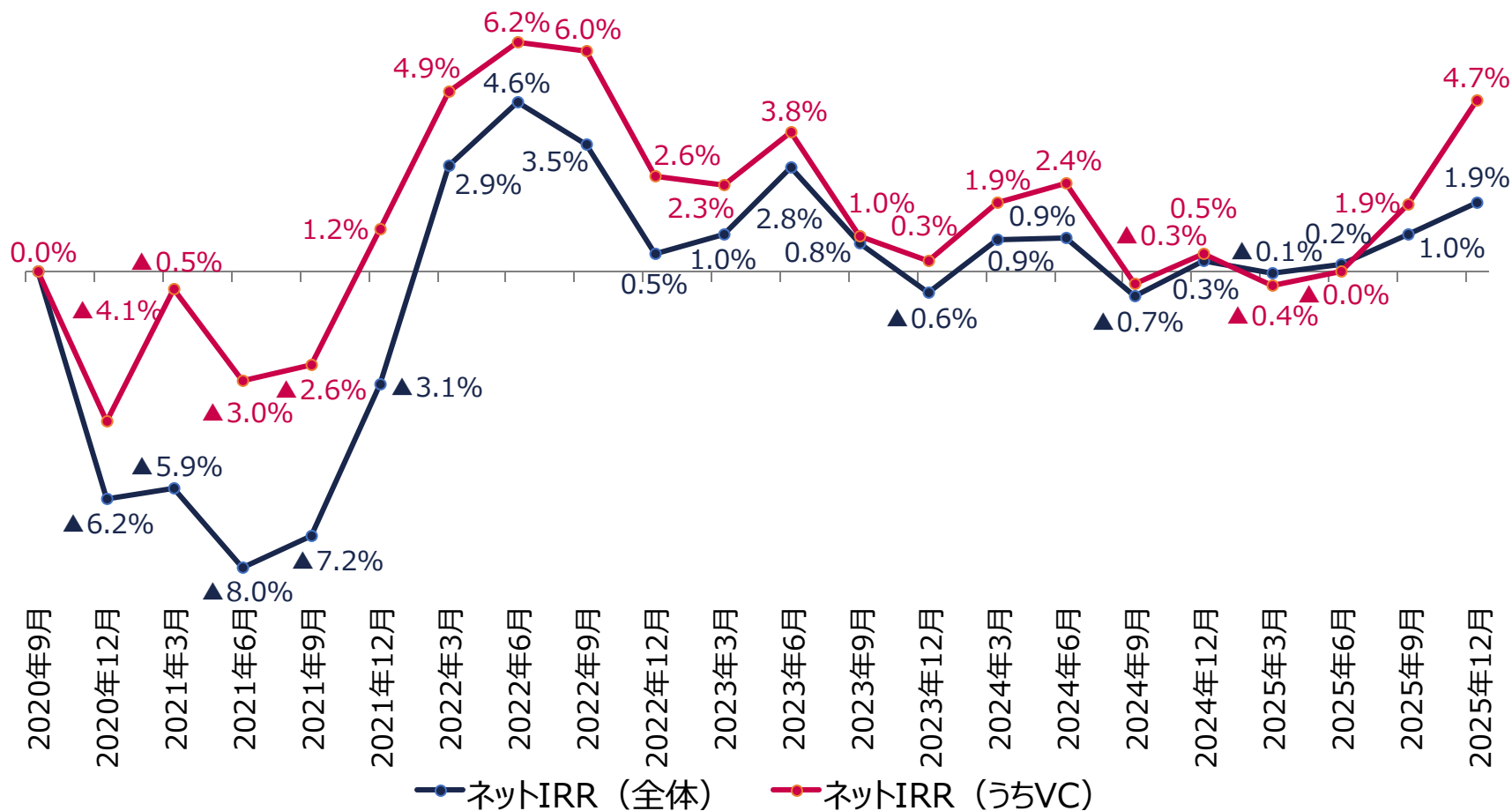
- 東証グロース市場のINDEX価格は2021年下期をピークに約6割の水準に下落。スタートアップのEXIT時の期待評価マルチプルも22年以降下落
- JICのポートフォリオでは最もネガティブな影響を受けているのは2020年ビンテージ、及び、投資先企業ベースで見るとレート・グロースステージ投資

(2025年12月末時点)

	投資決定 件数	出資約束額	払込済金額	進捗率	倍率 (対払込済額)			ネットIRR
					分配金 (DPI)	NAV (RVPI)	分配金 +NAV (TVPI)	
民間VCファンド	50	2,246億円	1,346億円	59.9%	0.05倍	1.26倍	1.31倍	13.2%
(2019年以前)	5	177億円	174億円	98.0%	0.14倍	1.92倍	2.07倍	20.9%
(2020年)	2	50億円	45億円	90.0%	0.06倍	0.96倍	1.03倍	0.9%
(2021年)	7	446億円	380億円	85.3%	0.03倍	1.27倍	1.30倍	11.9%
(2022年)	16	717億円	484億円	67.5%	0.06倍	1.20倍	1.26倍	12.7%
(2023年)	8	401億円	166億円	41.5%	0.01倍	0.95倍	0.95倍	▲ 4.4%
(2024年)	5	193億円	68億円	35.4%	0.00倍	1.01倍	1.01倍	1.4%
(2025年)	7	262億円	28億円	10.8%	0.00倍	0.88倍	0.88倍	▲ 24.7%

* ビンテージイヤー：JICの出資約束の時期と関係なく、当該ファンドが運用を開始した年（カレンダーイヤー）

【ネットIRRの推移】



JSR株式会社：



- ・2024年より構造改革、業界再編を通じた成長戦略の実行を支援。
- ・FY25はDSの成長とLSの黒字化によりコア営業利益は過去最高の623億円。LS関連の事業譲渡により当期純利益は過去最高607億円を達成しV字回復。
- ・2030年までにコア営業利益1,000億円の達成を目指す。

* DS：デジタルソリューション事業、LS：ライフサイエンス事業

新光電気工業株式会社：



- ・25年6月に非公開化完了後、JICキャピタルから役員を派遣。ハンズオンでのバリューアップを推進。経営管理体制高度化、短中期収益改善施策の立案、中期経営計画策定等をサポート。
- ・創業80周年を迎え新ミッション“Brightening the Future”を策定。
- ・チップレット技術や光電融合といった先進半導体パッケージ分野での競争力強化を強かに支援し、日本の半導体産業の国際競争力向上への貢献を目指す。

Astemo株式会社：



- ・2023年に資本参加し、次世代モビリティ（CASE領域）の持続的な成長と、グローバル競争力強化を目的に支援。
- ・2026年5月、日立との間でSDV化加速に向けた運転支援AIの開発基盤構築の協業を発表。日立からホンダへの株式の一部譲渡に係る各国での審査が進行中。
- ・7月から井上社長の新体制のもとSDV時代におけるモビリティの電動化と智能化のリーディングカンパニーを目指し、事業強化と持続的な企業価値向上を図る。

株式会社トプコン：



- ・25年12月に非公開化が完了。長期目線での競争力強化、構造改革を支援。
- ・ビジネスモデル転換に向けて取り組み中。
- ・国内ハードウェア企業によるグローバル市場でのソリューション企業へのビジネスチャンスフォーメーションとしての成功事例創出を目指す。

振り返り

課題

今後

①投資リターン創出

- 投資判断において、**一般の機関投資家と同様にリターン創出を前提とした投資評価（GP能力・戦略・成績）も重視**
 - 公的投資機関として、**新興運用者リスクは積極的にとりつつ将来の機関投資家受託目標を運用者と共有し運用者へのエンゲージメントを強化**
- 「政策目的」だけでなく、**投資としての成立性（リターン期待）を確保する規律を維持**

- 投資対象の多くがディープテック、ライフサイエンスといった長期・高リスク領域やグロースなど日本では実績が少ない戦略
- 投資しているファンド運用者の多くが新興運用者であり、リターン獲得とその再現性のリスクをとった運用（ファンド毎のリターンのばらつきが大きいと想定）

→
政策適合性とリターン最大化のトレードオフ管理に留意しつつ、ポートフォリオでリスクを吸収する努力

- 投資規律を維持しつつ、
- ポートフォリオ全体でのリスク／リターン管理強化
- LPとして少しでもGPの運用力強化に資する取り組みを継続

→
政策投資でありながら、**運用者が「将来の機関投資家受託を目指す」ことによる運営改善・運用力強化が期待されパフォーマンス確保へ**

②ポートフォリオマネジメント

- 国内外ファンド、VC/PE双方への投資により、**分散されたポートフォリオを構築**
 - 大型案件については
✓ 複層における慎重なリスク評価を実施
- **JIC資本金や資金調達可能額、一定の分散を考慮しつつ、政策インパクトのある投資を実行**

- 2050年までの運用期限延長を受けて、持続的に運用を継続するため以下をより一層強化
- ポートフォリオ分散
- CF管理
- リスクマネジメントと資本政策

- JICCにおいて、従来のマジョリティ投資に加えて、**民間ファンド・事業会社との共同投資推進による分散**
- 政策意義のあることを前提に多様な戦略、多様な運用者の採用を検討
- 負債期限の多様化、適正な出資金レベルの議論

③リターン

- ポートフォリオ6年目に入り徐々に**結果が数値に現れるタイミング**
- 全体1.03x, JIC傘下0.99x, 民間1.33x
- JIC傘下：JICC時期尚早、VGIは22年以降のグロース評価額下落、上場済み案件の株価下落の影響
- 民間ファンド：順調なのは、創薬日本シーズの米国上市、国内シード・アーリー、バイアウト、米国AI

- スタートアップは保有期間が長くなること**が予想される中、セカンダリーExit、M&A Exitや必要なグロース資金・サポートの提供等VCの役割に期待
- ポートフォリオ維持のための借入金利子の上昇はJIC決算上はマイナス

- JICC半導体関連大型2件：需要追い風につき**中期的な事業成長期待**
- ポートフォリオ全体としては管理会計上はJカーブのマイナス期間を抜け出したタイミング。
- 財務会計上はJカーブのボトムは近いが、EXITが進む必要があり

政策動向に関連して

①成長17分野への投資状況



- 2025年12月末現在の成長17分野への投資状況（JIC持ち分で名寄せ集計）
- 防衛産業については、多くのデュアルユース案件は下記分類では航空宇宙等の他の分類にされている

(単位：億円)

	業種	件数	投資額
1	AI・半導体	176	9,222
2	デジタル・サイバーセキュリティ	534	1,273
3	情報通信	1	0
4	量子	5	14
5	防衛産業	1	1
6	航空・宇宙	34	83
7	海洋	1	1
8	造船	1	2
9	マテリアル(重要鉱物・部素材)	1	1
10	合成生物学・バイオ	58	113
11	創薬・先端医療	144	444
12	資源・エネルギー・安全保障・GX	50	151
13	フュージョンエネルギー	5	43
14	フードテック	37	52
15	防災・国土強靱化	3	2
16	港湾ロジスティクス	21	51
17	コンテンツ	16	14
18	その他	220	1,674
	合計	1,308	13,140

※ 本表における「成長17分野」への分類は、各投資先企業の業務内容（事業概要）に含まれるキーワードを基に、当社が機械的に推計したものです。具体的には、業務内容の記述から所定のキーワード辞書に基づき該当分野を判定し、該当キーワードが無い場合は投資先の産業課題分野から補完的に分類しています。いずれにも該当しない案件は「その他」に集約しています。本分類は当社による暫定的な整理であり、政府・関係省庁の公式分類とは独立した推計値です。

※上記には海外案件も含まれます（投資額構成比5%程度）

戦略分野	主要な製品・技術等
1 AI・半導体	①フィジカルAI(特にAIロボット) ②フィジカル・インテリジェント・システムの中核を担う半導体 ③パーティカルAI(領域特化型AI)
2 デジタル・サイバーセキュリティ	①データプラットフォーム ②セキュリティの確保された政府・地方公共団体のDX基盤 ③AI時代に対応した先進的セキュリティ製品・サービス ④クラウド・データセンター ⑤医療DX基盤 ⑥自動運転技術
3 情報通信	①オール光ネットワーク(APN:All-Photonics Network) ②海底ケーブル ③次世代ワイヤレス(非地上系ネットワーク、5G/Beyond 5G(6G)等)
4 量子	①量子コンピューティング ②量子通信・ネットワーク ③量子センシング
5 防衛産業	①小型無人航空機 ②艦艇 ③デュアルユース技術
6 航空・宇宙	①民間航空機(次期単通路機・次世代航空機) ②無人航空機 ③空飛ぶクルマ ④ロケット・射場 ⑤人工衛星・サービス ⑥月面探査・低軌道技術
7 海洋	①海洋無人機(海洋ドローン) ②海洋状況把握(MDA) ③革新的海底開発技術
8 造船	①次世代船舶 ②船舶修繕
9 マテリアル(重要鉱物・部素材)	①永久磁石 ②革新的金属部素材 ③低炭素金属部素材

戦略分野	主要な製品・技術等
9 マテリアル(重要鉱物・部素材)	④一次原料(鉱石等)及び二次原料(リサイクル材等の循環資源)からの製錬・分離精製、解体選別技術 ⑤AI等を活用した複合新素材
10 合成生物学・バイオ	①バイオものづくり ②バイオ医薬品・再生医療等製品等(創薬・先端医療③と同じ)
11 創薬・先端医療	①ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品(医薬品、再生医療等製品) ②感染症対応製品 ③バイオ医薬品・再生医療等製品等(合成生物学・バイオ②と同じ) ④革新的デバイス(AI、ロボティクス等)を活用した先端医療 ⑤ライフログデータ等を活用したヘルスケア関連サービス
12 資源・エネルギー安全保障・GX	①次世代型太陽電池(ペロブスカイト太陽電池等) ②水素等 ③グリーン鉄 ④次世代地熱 ⑤洋上風力 ⑥次世代革新炉 ⑦グリーンケミカル
13 フュージョンエネルギー	①フュージョンエネルギー
14 フードテック	①植物工場 ②陸上養殖 ③食品機械 ④新規食品
15 防災・国土強靱化	①防災技術
16 港湾ロジスティクス	①港湾荷役機械 ②サイバーポート(港湾物流情報DX) ③次世代型倉庫
17 コンテンツ	①ゲーム ②アニメ ③マンガ ④音楽 ⑤実写

成長17分野全体

JICの重点投資分野とオーバーラップ

ディープテック

- ①ディープテックへ投資するVCの支援
- ②グローバルディープテックVCとの連携
- ③長期の育成を可能にするためのVGI運用ファンドの
存続期限の延長を含む対応の検討

ライフサイエンス

- 日本創薬シーズ+市場（対象疾病、米国市場）+米国人材で
カンパニークリエーションをプロデュースする戦略で成功
- 海外シーズ+日本/アジア市場+日本人材での日本におけるカ
ンパニークリエーションモデルも

デュアルユース

JICは投資先VCに対して主体的に投資制限をかけることはない

スタートアップ
育成

- ①大きな野心を応援するVCへの支援
- ②グロースステージで育成のPlaybookを持つグローバル
グロースVCとの連携促進
- ③セカンダリ投資VCの支援、セカンダリ取得も行う
グロースファンド支援

②高さのあるスタートアップ創出

- LPとして、高さのあるスタートアップ創出のためのエコシステム基盤づくりを下記のテーマ等を通じて実施
- 単にLPとして資金供給、傘下のVCを通じてのスタートアップ投資では限界があり、今後もエコシステム全体に目を配った様々な工夫が必要

これまでの取り組み

追加留意事項

① リスクマネーのつながり	シード・プレシード	アーリー	グロース	VCサイズ拡大、追加投資用F支援	海外VC
② グローバル市場期待：DT/LS	VGI	DT/LS特化型VC	DT投資枠を持つ一般VC支援	海外ネットワークを持つVC支援	海外VC
③ 野心のある起業家支援	野心を後押しする独立系アーリーVC	Y-Combinator	海外VCとSUとの議論促進		
④ グロース資金	VGI：VGF1/2号ファンド	VGI：オポチュニティファンド	国内新興グロースVC	海外VC	
⑤ 投資家：グローバル視点	海外VC				
⑥ ミドル期以降の事業成長支援機能	海外VC	国内VCと海外VC連携			
⑦ 10年超の育成期間対応	セカンダリファンド	グロースVCによるセカンダリ取得	VGI		
⑧ M&Aによる規模拡大					

- VC以外のバックグラウンドを持つロールフ
- 多様な専門性・スキルを持つキャピタリスト
- 国内VCの支援メニュー多様化
- スタートアップM&Aを戦略に掲げるファンド

③ その他政策課題取り組み関係

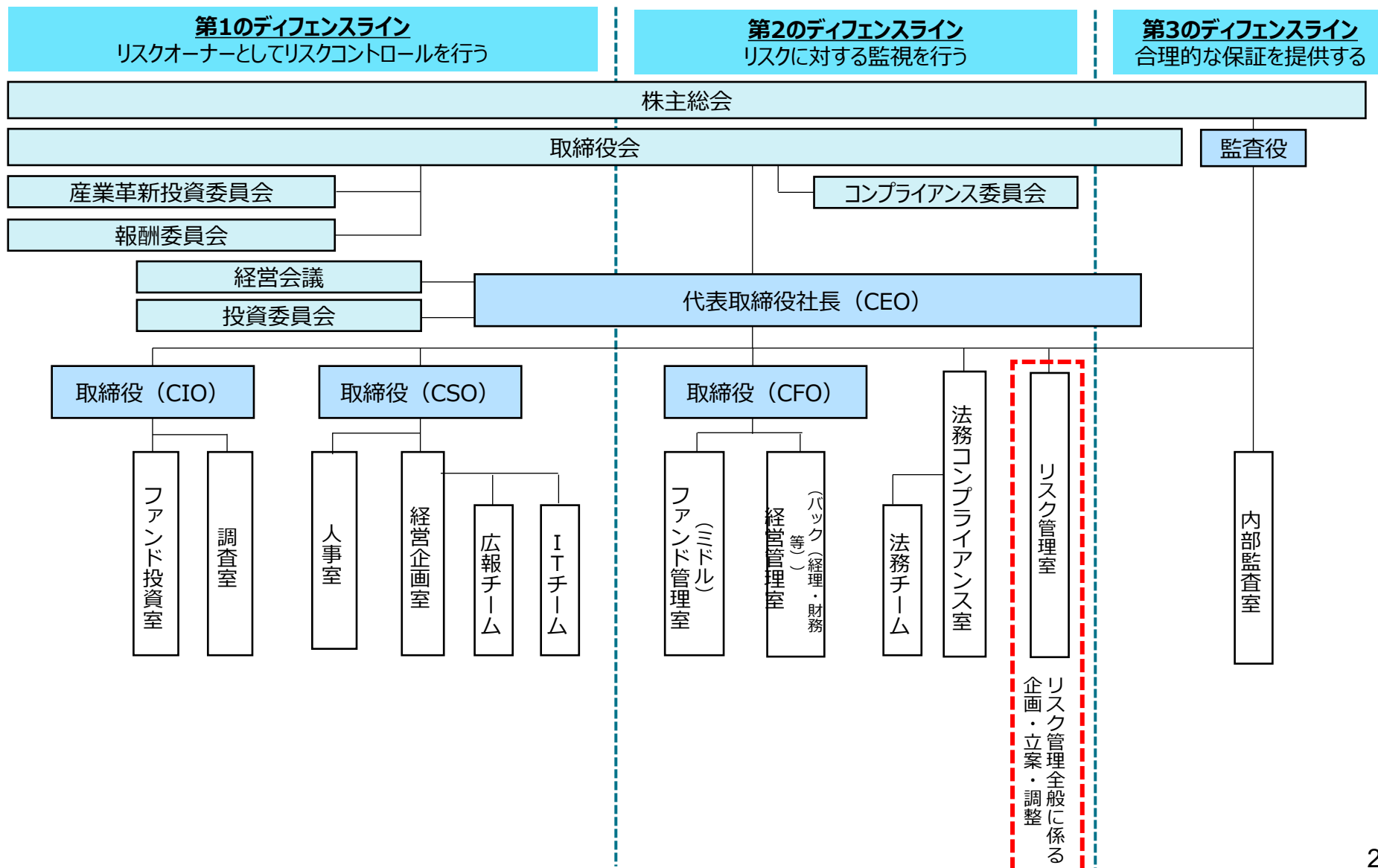
- JICが民間ファンド投資を開始して6年が経過。既存のプレーヤーが存在する分野については、一通り投資テーマを定め取り組んでいる。
- 一方で、現状のプレーヤーだけでは対応できない分野もでてくることが予想され、今後JICとしてRFPを行って運用者を公募することも検討していく。
- 例えば以下等を想定。JICのLP出資比率は50%未満を前提にしているので、ハードルは高いが、市場参加者の方々と議論しながら実現性を含めて順次検討を進めていく

政策課題	課題	RFPの例
スタートアップを対象にしたM&Aの促進	M&Aのキャリアを持つキャピタリストが少ない	バイアウト運用者によるスタートアップBuy & Build戦略
スタートアップの成長資金供給	グロースステージ、及び、東証グロース上場企業を対象にニューマネーを供給するプレーヤーが少ない	東証グロース市場、未公開企業を対象にしたクロスオーバーファンド

参考資料①

リスクの管理体制の整備

経営上のリスクを一元的・包括的に管理するため「リスク管理室」を新設（2026年7月1日予定）



参考資料②

**これまでのJICの取組と望ましい将来像
民間ファンドに対する成長支援**

- ・ リスクマネー供給に関して量的支援、リスクマネーつなぎこみ、VCの質向上に取組み、一定の進捗。
- ・ 一方、22年をピークにSU資金調達額は停滞。JICとして、今後望ましい姿に向かって取り組んでいく必要がある

5年間の状況

足元、または、将来見込み

市場	SU資金調達額	<ul style="list-style-type: none"> ・ 25年まではSmall IPOに最適化された市場 ・ SU資金調達額、評価指標は22年をピークに停滞 ・ 機関投資家LPの参入は見られるが、事業/金融系LPのVC投資は停滞 ・ 海外VCは、地政学的な観点や政府によるSU支援を背景に、国内SU投資検討開始する動き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上場維持基準改定の動きにより、SU/VC間で大きな成長かM&Aかという健全な議論が行われるようになってきた。 ・ グロース資金が本格的に必要なようになってくる市場に ・ SUのM&A Exitが大きな課題に ・ 海外VCの参入は継続
	評価額 (SaaS)		
	LP動向		
	海外VCの日本SU投資		
	上場維持基準		

主な取組

5年間の成果

望ましい姿

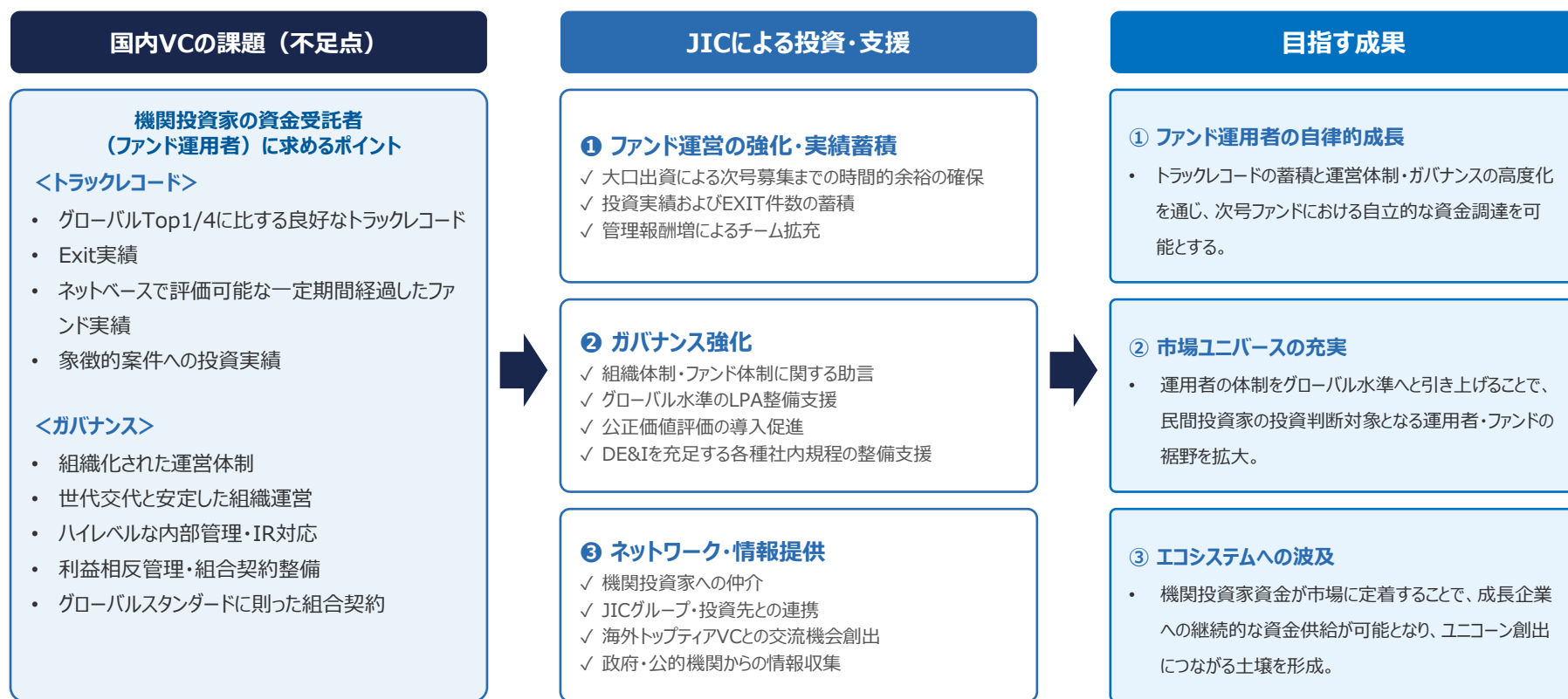
量的支援	VGI	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICの投資テーマに合致し、民間LP資金が集まりにくい分野やファンドに概ね対応できた ・ 民間LP資金の呼水も一定の成果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進VC、新興問わず、現在活動しているGPだけを対象にしていると資金供給量は増える状況にない ・ 新たなプレーヤー（海外VC、グロース、クロスオーバー等）の参加を促す施策が必要
	ファンド数増加		
	サイズアップ		
	民間資金呼水		

リスクマネーのつなぎこみ	DT/LS	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間資金不足分野VCへの投資、プレーヤーとなるVCがない分野での新興VC立ち上げ支援、民間が手掛けにくい分野を中心に投資するVGIファンド設立などを実施 ・ Small IPO前提ではグロース投資リターンが期待できないこともあり民間グロースファンド投資は進まず ・ 23年からはSUのGo Global支援の一環として、海外VC投資し、日本エコシステム貢献を進め、一定の成果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPの投資戦略やSUへのサポート能力について、より多様性が必要となってくる ・ 今後増加を期待する分野 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外VC（目利き、資金供給、サポート） ➢ グロース/クロスオーバーファンド（資金、流動性） ➢ SUのM&Aを戦略にするVC/バイアウトファンド（流動性、SUの規模拡大・成長支援） ➢ グローバルアクセラレーター（Day1 Global）
	シード～アーリー		
	グロース		
	After IPO		
	セカンダリ		
	海外VCとの連携		

VCの質向上	運営体制/VCRH'S	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIC投資先VCには、運営体制/組合契約を整備したうえで投資しており、機関投資家からみて違和感のないレベルに ・ 業界全体としてもVCRH'sに反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・ VCが機関投資家から資金受託するためには以下が必要 <ol style="list-style-type: none"> ①運営体制・組合契約の整備 ②過去運営ファンドのネットリターン3倍、分配額>投資額 ③継続的に②のリターンを期待させる投資/サポート戦略（JICとしては従来直接踏み込んでいない領域）
	LP対応等相談		
	(新興運用者向け) ファンド設計改善		
	SUサポート力強化		

* 流動性：セカンダリ、M&AなどによるVCへのEXIT提供の趣旨

- 資金供給に加え、運用体制やガバナンスの強化、ネットワークの提供等、一体的な支援を提供
- 運用者の自立的成長を促進させ、運用者のユニバースの拡充、ユニコーン創出に繋がる民間資金の好循環の形成に注力



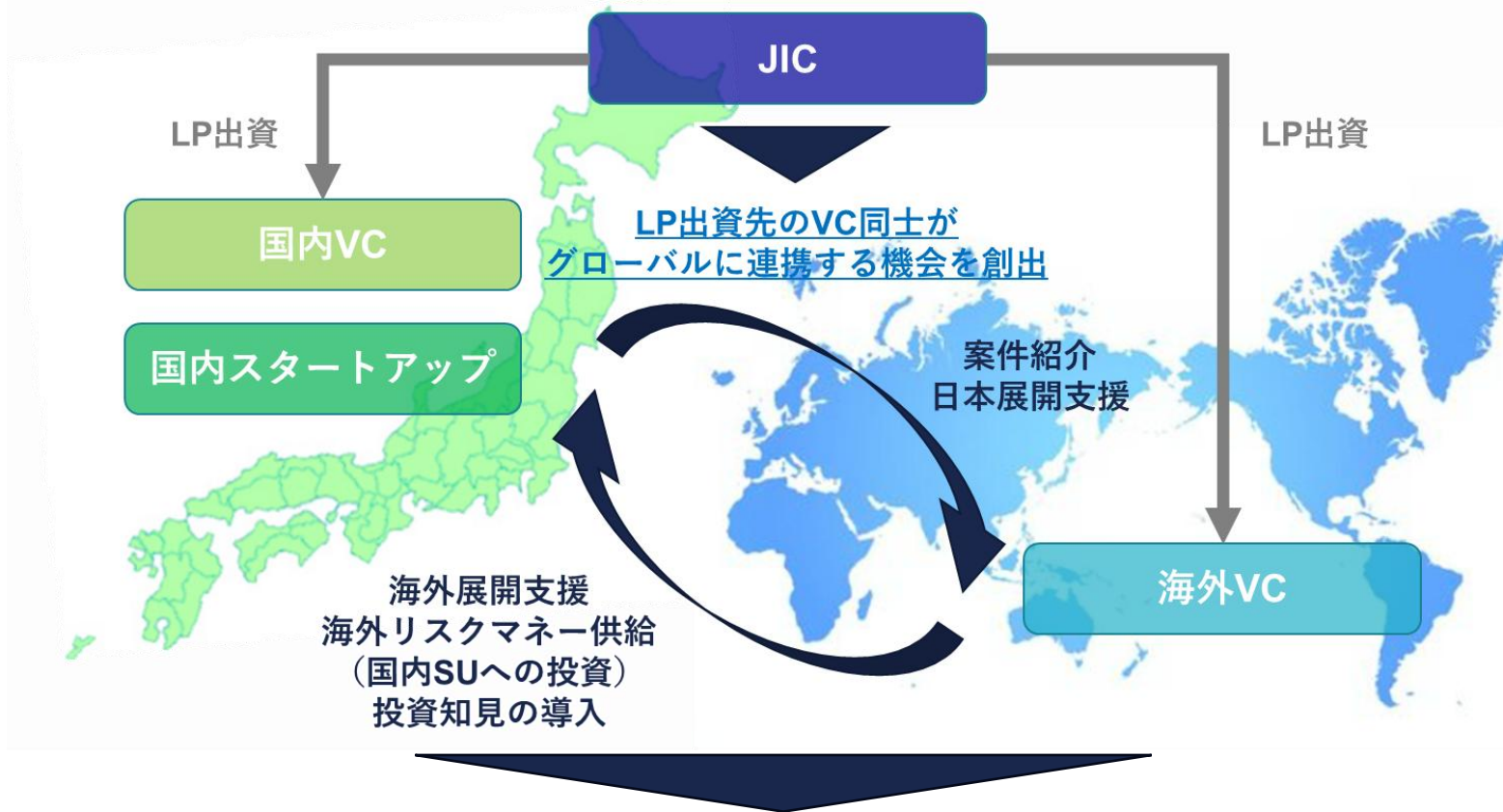
■ 出資検討時や出資後に、多岐に亘る支援を実行。運用者の育成支援に注力することで、日本のエコシステムの発展に貢献

課題	支援概要	支援ファンド数	主な支援事例
GPとして あるべき姿の 実現	AGM/LPAC運営	31	運用中の既存ファンドのAGMの合同開催提案、LPACの設定、LPAC委員の条件整備、LPACの定期開催提案、運営やコンテンツに係る助言
	ハードキャップの設定（適正ファンドサイズ）	21	ハードキャップ設定、目標ファンドサイズやハードキャップの引き下げ
	管理報酬/インセンティブ設計	21	成功報酬水準に対する助言（例：3.0xで40%→30%）、GP間のキャリー配分見直し、管理報酬料率変更
	組織体制/ファンド管理体制	21	組織体制拡充要請、採用支援、オペレーションミスの指摘、財務諸表改善助言
	運用会社・GPストラクチャー/ファンドストラクチャー	13	キャプティブ性の解消、LPとのアライメント強化、サクセッション対応に係る助言
	投資戦略・ポートフォリオ構築方針	13	投資戦略修正支援（例：シード/アーリーとレイターのパーベル戦略から、シードフォーカスの戦略に変更）、特定領域スタートアップの一定比率組入の提案
	最恵国待遇条項対応	13	サイドレター上の最恵国待遇条項対応のプラクティスについて助言ならびに実務支援
	追加出資手数料の適切な設定・分配	11	追加出資手数料に係る規定設定、配分先の変更（組合→既存組合員）
	キーパーソンの整理	10	シングルキーマンの設定、キーパーソンの増員助言、キーパーソンの要件変更
	投資委員会	10	投資委員選定や運営に係る助言、決議方法の変更
	過度な募集期間延長の抑制	7	原則として募集期間が合計でも2年以内となるよう助言
LPA違反对応	2	JICにてLPA違反事例を確認し対応を要請	
利益相反	クロスファンド投資	12	クロスファンド投資はLPAC承認とするよう要請し、実際の投資時にはLPACで助言。アネックスファンド等の組成に際して懸念される利益相反事項を助言
	兼務兼職	10	兼務体制の見直し要請（例：役職辞任、リソース配分変更）
	ファンド間売買	4	ファンド間売買はLPAC承認とする変更実施、プロセスや手続きに関する助言
	JICグループ（VGI）との取引	2	サイドレターにて利益相反防止策を整備
	LP間での平等性確保	1	共同GPの関連会社であるLPが単一で決議要件を否認できないよう規定を変更
その他	呼び水効果への貢献	12	投資家候補のレファレンスに協力
	その他	20	承継ファンド等の設立構想や募集に係る助言、VGIへの紹介

※ 2024年7月末までにJICが出資を行った民間ファンド（計42件）に対する支援実績

参考資料③ 海外VCとの連携

- これまで海外VC 6件に投資を実行。国内VC/スタートアップとの間での協業機会の創出を推進。



海外VC

				
2023年1月*	2023年4月*	2024年2月*	2025年12月*	2026年3月*

グローバルアクセラレーター

	
2024年6月*	

* SU : スタートアップ

* : コミットメント年月

■ 国内スタートアップによる海外進出・ベストプラクティス導入を通じたエコシステム変革を促進

1 優れた投資実績と 培われた知見

- スタートアップ投資は、運用者間でパフォーマンスの差が大きいアセットクラス。日本発のグローバルユニコーンの創出を目指す為には、確かな実績を有するVCとの連携が必要。

2 グローバルな視点 ・ネットワーク

- 多くのトップティアVCは、グローバルな視点と広範なネットワークを有しており、国内スタートアップがグローバル市場で成功する為の支援を提供することが可能。




3 知見共有とベスト プラクティスの導入

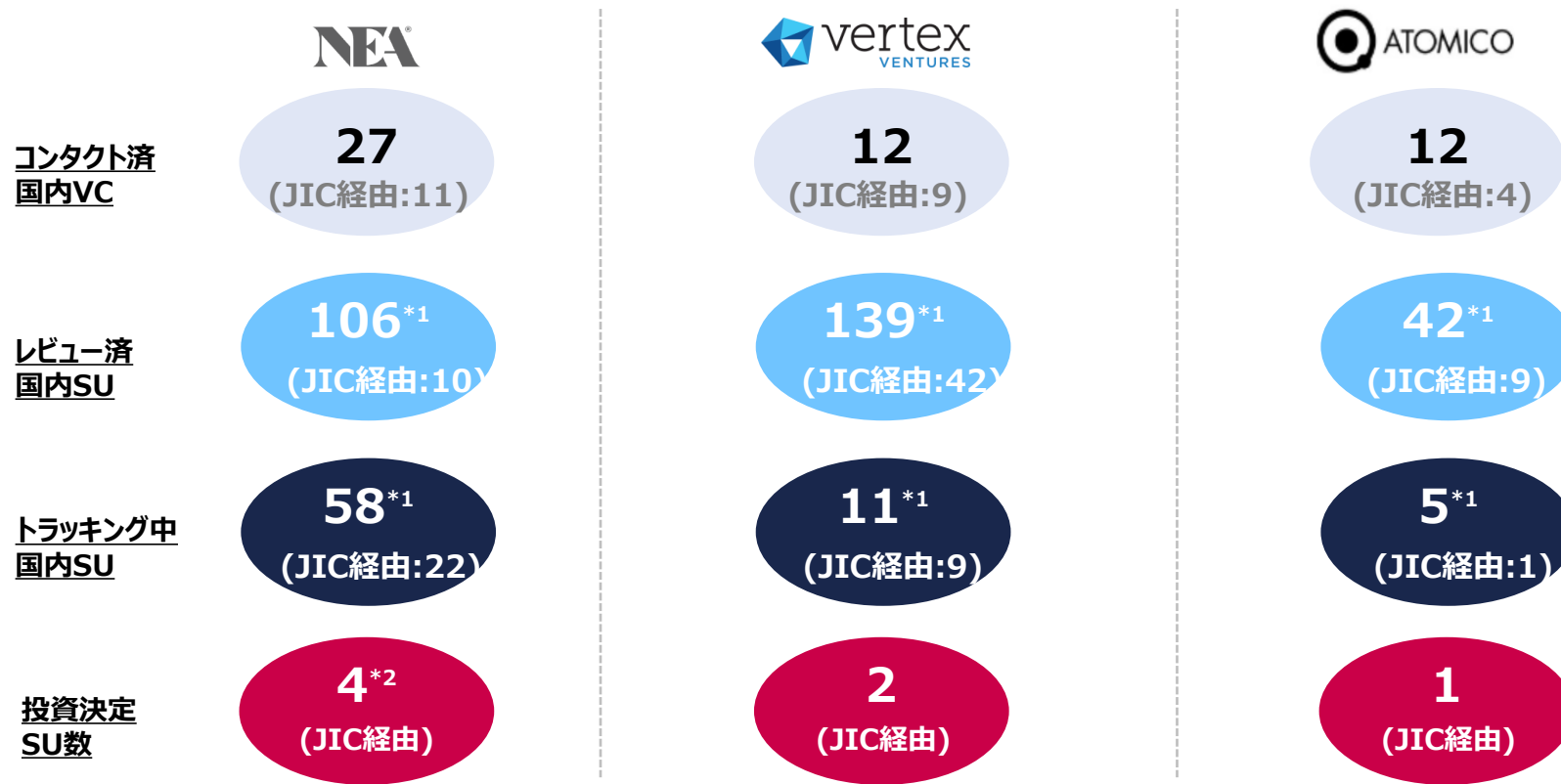
- トップティアVCは、成功したスタートアップの育成に関する豊富な経験と知識を有しており、国内エコシステムにベストプラクティスを導入することで、成長を促進することが可能。

4 アナウンスメント効果 を通じた呼び水

- トップティアVCが日本に関与することで、他の海外投資家も日本市場に関心を持ち、リスクマネーの呼び込みに繋がるのが期待される。

■ 国内VC/スタートアップとのマッチングを通じて、海外VCによる出資検討を推進。

	2024年から精力的にスタートアップへの出資検討に取り組中。2024年9月に投資を実行したSakana AIを皮切りに、2025年上期にはTokenz（3月）とTailor Technologies（6月）へも実績を拡大。第4四半期には新たに1社への投資を決定。
	国内VC・スタートアップとの面談や出資検討を推進中。2024年5月にJIC経由での初の投資案件となるmatsuri technologies、2025年9月にはHubbleへの投資を実行。JICとVGIは出資枠の割当交渉にも尽力し、Vertexの出資枠拡大に貢献。
	ソーシングした国内スタートアップの件数は、他VC対比で限定的ながらも、2025年3月にはJIC経由でグロース・ファンドからCADDiへの投資を実行。今後はベンチャー・ファンドからも国内スタートアップへの投資に期待。



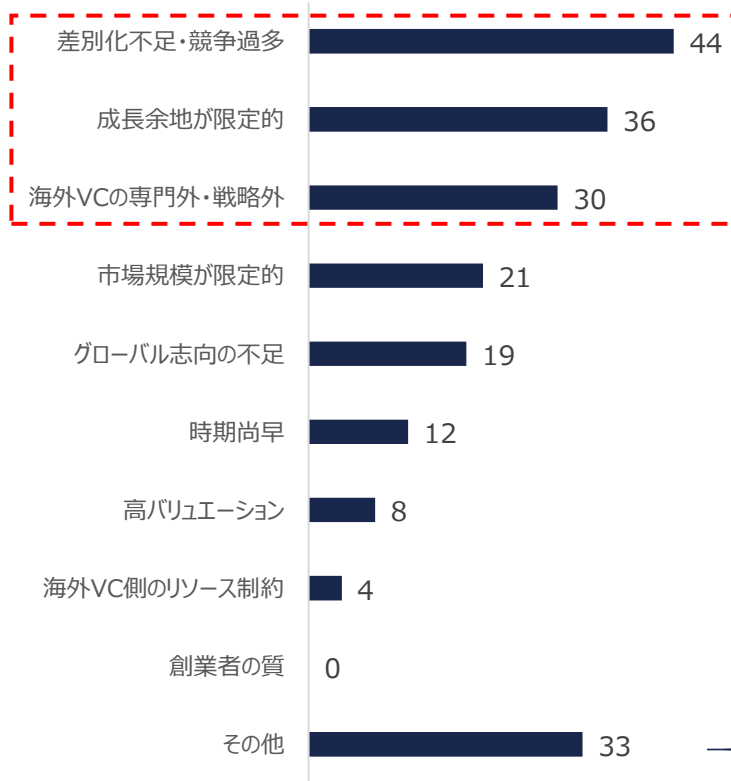
※1 海外の投資先ファンドから取得したデータを基に集計

※2 一部予定含む

注：各海外VCの主担当領域やヒアリング等から、国内VCを選択し、紹介。2025年9月末までにJICがコミットした民間ファンド（計50社）に対する支援実績

- 海外VCによる国内スタートアップへの投資見送りの主な事由は、「差別化不足・競争過多」、「成長余地が限定的」、「海外VCの専門外・戦略外」の3つ
- 見送り事由に対する具体的な対応策は、今後、海外VCとの協働の中で見い出していく

海外VC 3社によるスタートアップ投資見送りの理由



「その他」の回答事例

Despite the significant traction, we have decided to pass due to the longer-term payout model for the core business and the new business model is only starting for few months. (太陽光発電システム会社)

NDA was issued but Company has been slow to get back. (断熱材メーカー)

Potential conflict with [Port. Co.] and also, room capacity ramp up takes 2-3 years to develop. (ホテルブランド運営会社)

Interesting concept but alcohol based is quite niche in SEA and in certain countries may be too niche segments with high luxury tax. (酒造メーカー)

Founded in 2002 with pivot to SaaS in 2012 suggests modernization risk. (モバイルアプリの運営会社)

Significant corporate ownership from [Parent Company]. (医療サービス会社)

注：見送りスタートアップ 1社に対し、複数の項目を選択するケースも含む。

- Vertexと「Unlocking and Capitalizing Opportunities in Southeast Asia and India」を開催。東南アジア・インド市場の概観や国内スタートアップの海外展開に向けた可能性、日本への示唆をキーテーマとしたキーノートスピーチやパネルディスカッション等を実施した。
- JIC/Vertex関係者に加え、JIC傘下GP22社（26名）、LP投資家・スタートアップ等8社（11名）が参加。

日時

- 2025年10月30日（木曜日）14:00-17:00
（ネットワーキング：17:00～18:00）

場所

- Sakura Deeptech Shibuya

参加人数・構成

- 参加者構成
 - JIC出資VCおよび関連企業
 - Vertex Ventures Southeast Asia & India (VESEAI) /Venture Growth Fund (VGF) 関係者、登壇企業経営陣 ほか

登壇者

【Vertex】

- Kee Lock Chua
(Managing Partner, Vertex/VVSEAI)
- Nikhil Marwaha (Partner, VVSEAI)
- Tam Hock Chuan (General Partner, VGF)
【Matsuri Technologies】

- 吉田 圭汰 (CEO)

【Hubble】

- 早川晋平 (CEO)



- 2025年11月14日に、Transpose及びIVSと「Tokyo Founder's Day」を開催。日本のスタートアップ・起業家が創業初日から世界市場を見据えて挑戦する、意識転換を促すことを企図。
- イベントは数十人がWaiting Listに登録され、当日も立ち見のセッションが確認された。

日時

- 2025年11月14日（金曜日）9:30-14:00

場所

- 渋谷QWS

参加人数・構成

- 人数：200名強
- 参加者構成
 - Transpose、IVS、JIC関係者
 - Y Combinator、YC出身起業家、国内VC・スタートアップ・起業家 ほか

登壇者

【YC】

- Jon Xu (General Partner)

【YC出身起業家】

- Kai Brokering (Voice OS)
- Davide Asnagh (Diode Computers)
- Dave Feldman (Greenboard)
- Catherine Di (Dedalus Labs)
- Abhilash Chowdhary (CrustData)
- Kiran (Random Labs)



Tokyo Founder's Day

Transpose Platform x 産業革新投資機構 (JIC) x IVS



- 2026年1月29日に、JIC出資先のVCのGPクラスメンバーを対象に、Atomicoと共催でクローズドなランチセッション「Lunch Session with Niklas: Perspectives from building a Global VC」を開催。Atomicoとの共催イベントは、2024年11月、2025年7月に続き、今回が3度目。
- VCファームの運営に関わるテーマを中心に、国内VCのGPクラスの参加者と対話を行うことを企図。

日時

- 2026年1月29日（木曜日）12:30-14:00

場所

- EGG（新丸の内ビル10F）

参加者

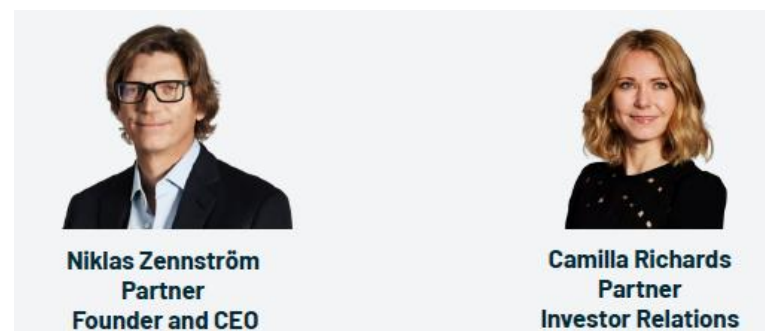
- 人数：17名
- 属性：JIC出資先の国内VC（GPクラスメンバー）

Atomicoメンバー

- Niklas Zennström
(Partner, Founder and CEO)
- Camilla Richards
(Partner and Head of Investor Relations)

セッションのテーマ

- VCファームの組織作り・チームビルディング
- VCファームにおけるガバナンス
- DE&Iの取組み



参考資料④

2025年7月～2026年5月までの 民間GP運営ファンドへのLP投資の状況

- 民間ファンドへの出資は12件
- 投資テーマ毎の方針に基づき、プレシード/シード、グロース、セカンダリー、ディープテック、Go Global、大型バイアウト等、各領域において投資を実行。

#	ファンド	投資年月	出資額	政策投資テーマ
1	mint 2	2025年4月	20億円	プレシード/シード
2	Genesisia 4	2025年5月	35億円	プレシード/シード、オープンイノベーション
3	Kepple Liquidity 2	2025年10月	30億円	セカンダリ
4	Minerva 2	2025年12月	30億円	グロース
5	Lux 4	2025年12月	\$ 40M	ディープテック、Go Global
6	KUC 2	2026年1月	20億円	ディープテック、産学連携
7	NEA19 VC	2026年2月	\$ 60M	プレシード/シード、Go Global
8	NEA19 VGE	2026年2月	\$ 40M	グロース、Go Global
9	GA2025	2026年3月	\$ 50M	グロース、Go Global
10	GLIN 2	2026年3月	30億円	グロース
11	Polaris 6	2026年3月	120億円	大型バイアウト
12	NSSK 6	2026年3月	140億円	大型バイアウト

- 「セカンダリ」「グロース」「ディープテック」というプレイヤー増加が必要な領域での投資に取り組む国内VCへの出資を決定。

Kepple Liquidity 2号 投資事業有限責任組合

投資決定公表日	2025年10月29日
JIC投資額 (コミットメント額)	30億円
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> 97億円（2026年4月時点）
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> セカンダリ投資戦略の中でも、特に民間投資資金が不足しているダイレクト・セカンダリ投資に注力。 ミドル・レイターステージのスタートアップを投資対象とし、小型IPO等のエグジットを余儀なくされていたスタートアップの成長曲線を一段と押し上げ、日本発のユニコーン創出につなげるための受け皿となることを目指す。
JICによるLP投資の目的 (投資基準への適合性)	<ul style="list-style-type: none"> ユニコーン創出に向けたダイレクト・セカンダリ投資 国内セカンダリエコシステムの発展への貢献 民間投資資金の呼び込み、機関投資家からの資金調達の拡大

Minerva Growth Partners II LP

投資決定公表日	2025年1月14日
JIC投資額 (コミットメント額)	30億円
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> 200億円（目標）
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> 成長資金が必要なグロースステージのスタートアップを投資対象とし、インターネット・ソフトウェアを中心としたテクノロジーセクターへの投資に注力する方針。
JICによるLP投資の目的 (投資基準への適合性)	<ul style="list-style-type: none"> 有望な国内スタートアップの成長に寄与するグロース資金供給 テクノロジーセクターへの投資拡大によるイノベーションの好循環の実現 民間投資資金の呼び込み、機関投資家からの資金調達の拡大

KUC2号 投資事業有限責任組合

投資決定公表日	2026年3月13日
JIC投資額 （コミットメント額）	15億円
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> 60億円（目標）
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> 神戸大学の連携ファンドとして神戸大学や神戸医療産業都市、神戸市を中心に地方の大学研究機関や自治体との連携を強化し、将来性のある技術シーズを活かした有望なスタートアップの創出に積極的に取り組む。 地方に眠る将来性のある経営資源を活用したディープテック・スタートアップへの投資に注力する方針。
JICによるLP投資の目的	<ul style="list-style-type: none"> ディープテック・スタートアップへのリスクマネー供給 地方に眠る経営資源の活用 民間投資資金の呼び込み、機関投資家からの資金調達の拡大

GLIN Impact Capital 2号 投資事業有限責任組合

投資決定公表日	2026年4月21日
JIC投資額 （コミットメント額）	30億円
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> 200億円（目標）
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> グロースステージのスタートアップに投資し、企業価値向上や、その実現に資する社会インパクトの創出を支援。 気候変動やヘルスケア、包摂的な社会づくりに関わる領域等で、事業成長や、その成長に資する社会的インパクトの創出を目指すスタートアップへの投資を進める方針。
JICによるLP投資の目的	<ul style="list-style-type: none"> グローバルユニコーンの創出に向けたグロースステージへの資金供給 課題解決型イノベーションをもたらす好循環創出 民間投資資金の呼び込み、機関投資家からの資金調達の拡大

- 昨夏に公表した投資テーマ「大型案件に取り組むバイアウトファンド」に沿ったバイアウトファンドへの出資を決定。

ポラリス第六号 投資事業有限責任組合

投資決定公表日	2026年4月24日
JIC投資額 (コミットメント額)	120億円
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> • 2000億円超（海外パラレルファンド含む）
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> • 技術・製造、医療・ヘルスケア・福祉、IT・サービス・物流、消費財・小売業界等を対象に、業界再編に繋がるカーブアウトや中長期の成長投資を通じて産業競争力強化に寄与する案件への投資を行う。 • カーブアウト、非公開化、事業承継等に対応してきた実績を踏まえ、大型案件への投資をこれまで以上に推し進める予定。
JICによるLP投資の目的	<ul style="list-style-type: none"> • 事業再編や成長投資を通じた産業全体の競争力強化 • 大型案件への対応力を有するプレイヤーの増加

日本産業推進機構4号 投資事業有限責任組合

投資決定公表日	2026年5月8日
JIC投資額 (コミットメント額)	140億円
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> • 2500億円（海外パラレルファンド含む）
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> • 製造業、ヘルスケア、教育、ホテル/不動産サービス等を主要投資領域に、業界再編に繋がるカーブアウトや中長期の成長投資を通じて産業競争力強化に寄与する案件への投資を行う。 • カーブアウト、非公開化、事業承継等、多様な投資局面に対応してきた実績を踏まえ、より大型の投資案件に重点を置いた体制を構築する。
JICによるLP投資の目的	<ul style="list-style-type: none"> • 事業再編や成長投資を通じた産業全体の競争力強化 • 大型案件への対応力を有するプレイヤーの増加

- 海外トップティアVCとの連携を通じたエコシステム強化に向け、領域・戦略の異なる複数の海外ファンドへの出資を決定。

Lux Ventures IX, L.P.

投資決定公表日	2026年2月2日
JIC投資額 (コミットメント額)	5000万米ドル
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> 15億米ドル
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> 主に早期のステージを中心に新興の科学・技術分野への投資を行う。足元のトレンドに左右されず、長期的な時間軸で社会実装が見込まれる次世代先端技術を見極めて投資し、有望なスタートアップを早期から支援。
JICによるLP投資の目的 (投資基準への適合性)	<ul style="list-style-type: none"> 海外VCとの連携を通じたディープテック領域のグローバルユニコーン創出 国内スタートアップエコシステムにおける知見・支援能力の向上 海外投資家からのリスクマネーの呼び込み

New Enterprise Associates 19, L.P. NEA 19 Venture Growth Equity, L.P.

投資決定公表日	2026年3月11日
JIC投資額 (コミットメント額)	合計1億米ドル (NEA19VC:60百万米ドル、NEA 19VGE:40百万米ドル)
ファンド総額	<ul style="list-style-type: none"> 合計55億米ドル（目標）
主な投資対象・投資戦略	<ul style="list-style-type: none"> 1977年に米国で設立。100社超のユニコーン創出の実績とグローバルで最大規模の運用総額を有する。 テクノロジーおよびヘルスケア領域において、アーリーステージからグロースステージまで一貫した支援を行う。
JICによるLP投資の目的 (投資基準への適合性)	<ul style="list-style-type: none"> 海外VCとの連携を通じたグローバルユニコーン創出 海外ネットワークとの接続を通じた国内プレイヤーの知見・支援能力の向上 海外投資家からのリスクマネーの呼び込み

General Atlantic Investment Partners 2025, L.P.

投資決定 公表日	2026年5月19日
JIC投資額 (コミットメン ト額)	5000万米ドル
ファンド 総額	(非開示)
主な投資対 象・投資戦 略	<ul style="list-style-type: none">成長企業に資本と戦略的支援を提供し、ハンズオンの成長支援やグローバルネットワークを生かした国内スタートアップの海外展開支援を行う。
JICによる LP投資の 目的 (投資基 準への適合 性)	<ul style="list-style-type: none">海外ファンドとの連携を通じたユニコーン創出海外ネットワークとの接続を通じた国内エコシステムの発展海外投資家からのリスクマネーの呼び込み

参考資料⑤ 投資テーマ毎の目的と投資済みファンド

① ディープテック 設定時期：2020年6月 総投資件数：23件

目的

① デジタル技術も活用した、フィジカル技術ベースの非連続なイノベーションに基づき、② 社会課題の解決に大きなインパクトをもたらす可能性を有する技術で、③ その研究開発段階から上市までに長い期間と相当程度の資金を要するディープテックの研究開発・社会実装を支援

投資済みファンド

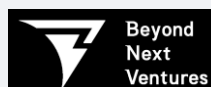


② ライフサイエンス 設定時期：2020年6月 総投資件数：8件

目的

スタートアップと製薬企業とのオープンイノベーションによる革新的新薬の開発をはじめ、医薬品、医療機器、ヘルステック、バイオテクノロジーなど、ライフサイエンス分野のイノベーションを支援

投資済みファンド



③ グロース 設定時期：2020年6月 総投資件数：11件

目的

グロースステージにあるスタートアップが、ユニコーンを目指すにあたり、事業を十分に成長させる為に必要な大規模なリスクマネーを供給

投資済みファンド



* 総投資件数、2026年3月末基準（JICグループファンドを除く）

④ 産学連携 設定時期：2020年9月 総投資件数：10件

目的

民間のリスクマネーが投下されにくい、地方大学等にある優れた技術の事業化を目指す研究開発型スタートアップ等を支援

投資済みファンド

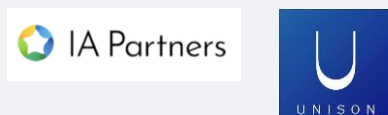


⑤ カーブアウト・ロールアップ 設定時期：2021年6月 総投資件数：2件

目的

国内の大企業・中堅企業を対象とするカーブアウト及びロールアップによる産業再編、事業再編を促進させ、生産性向上と国際競争力の強化を支援

投資済みファンド



⑥ オープンイノベーション 設定時期：2021年9月 総投資件数：14件

目的

米国、東南アジア、インド等の先進的な技術等を有するスタートアップと日本企業との事業提携等によるオープンイノベーションを促進させ、革新的なビジネスの創出を支援

投資済みファンド



* 総投資件数、2026年3月末基準（JICグループファンドを除く）

⑦ シード・プレシード 設定時期：2021年10月 総投資件数：13件

目的

将来のユニコーン候補になり得る有望なスタートアップの数を増やすべく、プレシード/シード期のスタートアップを支援

主な投資済みファンド



⑧ クライメートテック 設定時期：2021年11月 総投資件数：2件

目的

クライメートテック領域の革新的イノベーションや新たなビジネスの創出を支援の上、地球温暖化対策を経済成長に繋げるとともに、世界の脱炭素化に貢献。GX領域における投資を通じた政策的意義達成に向け、新たに国内外のスタートアップ、中堅企業向け成長資金の供給、バイアウト、インフラストラクチャーを投資対象とするファンドへの出資を検討

投資済みファンド



⑨ セカンダリー 設定時期：2022年3月 総投資件数：3件

目的

ユニコーンを目指すスタートアップがファンドの存続期限により、十分な成長を制約されることのないよう、日本のセカンダリー市場の発展を支援

投資済みファンド



* 総投資件数、2026年3月末基準（JICグループファンドを除く）

⑩ Go Global 設定時期：2022年9月 総投資件数：18件

目的

日本発スタートアップのグローバル市場進出を支援すべく、海外VCの呼び込みを促進

投資済みファンド



⑪ エンゲージメント 設定時期：2024年11月 総投資件数：1件

目的

国際競争力を持ちうる事業領域の上場企業を対象に、中長期的な時間軸で建設的且つ友好的に経営陣と事業再編及び新規事業の創造に向けた対話を志向するエンゲージメントファンドへ投資を検討

投資済みファンド



⑫ バイアウト 設定時期：2025年5月 総投資件数：2件

目的

産業再編、事業再編に向け、大企業の経営改革を促進させるべく、国内の大企業にフォーカスした大型バイアウトファンド（概ね 2,000億円以上）への投資を検討

投資済みファンド



参考資料⑥

市場動向



日本



米国

スタートアップ

- 2025年の資金調達総額は7,613億円(現時点集計)。これは前年同時点での集計値とほぼ同水準。
- 2025年は、前年に引き続き、SaaS、生成AI関連スタートアップの資金調達が全体を牽引。
- シリーズAからシリーズCの1社あたりの資金調達額(中央値)は前年比上昇に転じた。少額の調達案件の件数が減少したことによるもの。投資家による出資先スタートアップの選別が進んでいる可能性を示唆している可能性あり。
- 各ステージの調達後評価額(中央値)は、概ね横ばい。
- 2025年のIPO件数は31件(前年同期比▲18件)。例年は年後半にIPO件数が増えやすいが、2025年はそうした季節性がみられなかった。
- M&A件数は232件。前年に引き続き高水準。

- 2025年におけるスタートアップの年間資金調達額は\$339 Bと、前年を59%上回った。
- AI関連スタートアップへの投資が全体を牽引した。
- AI基盤を巡る競争は一段と激化している。生成AIの進化は、SaaSを含む既存のソフトウェア業界のビジネスモデルに構造的な変化をもたらす可能性が高い。
- アーリー～グロースの評価額(中央値)は上昇した。AI関連スタートアップの資金調達が占める割合が件数・金額ともに上昇したことによって、評価額(中央値)は各ステージとも上昇した。
- IPO、M&Aの件数・金額は回復基調にある。M&Aにおいては、テック大手がAIスタートアップを買収するケースがみられた。2026年後半には大型ユニコーンのIPO申請も期待されている。
- M&Aについても、金融環境の緩和が進めば回復が加速すると期待されている。

ベンチャーキャピタル

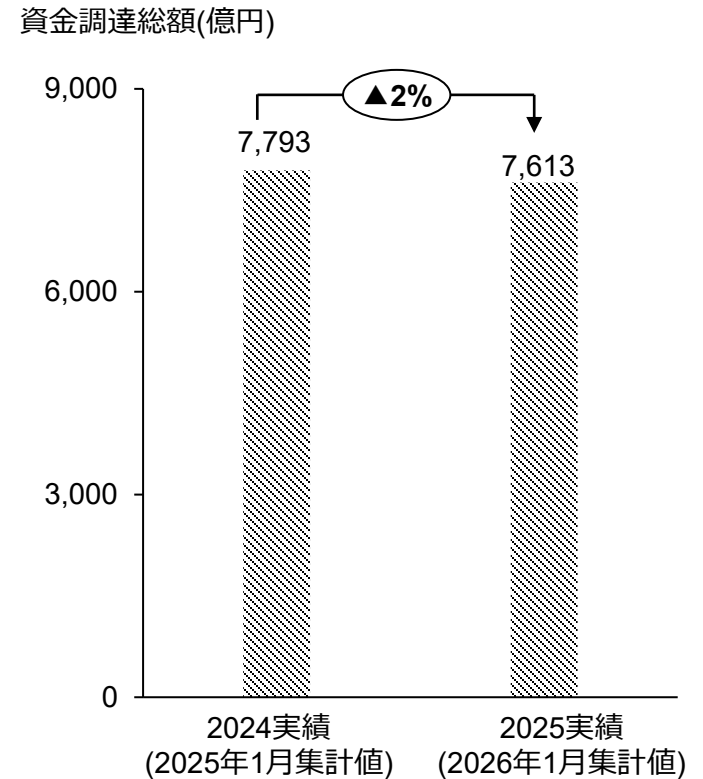
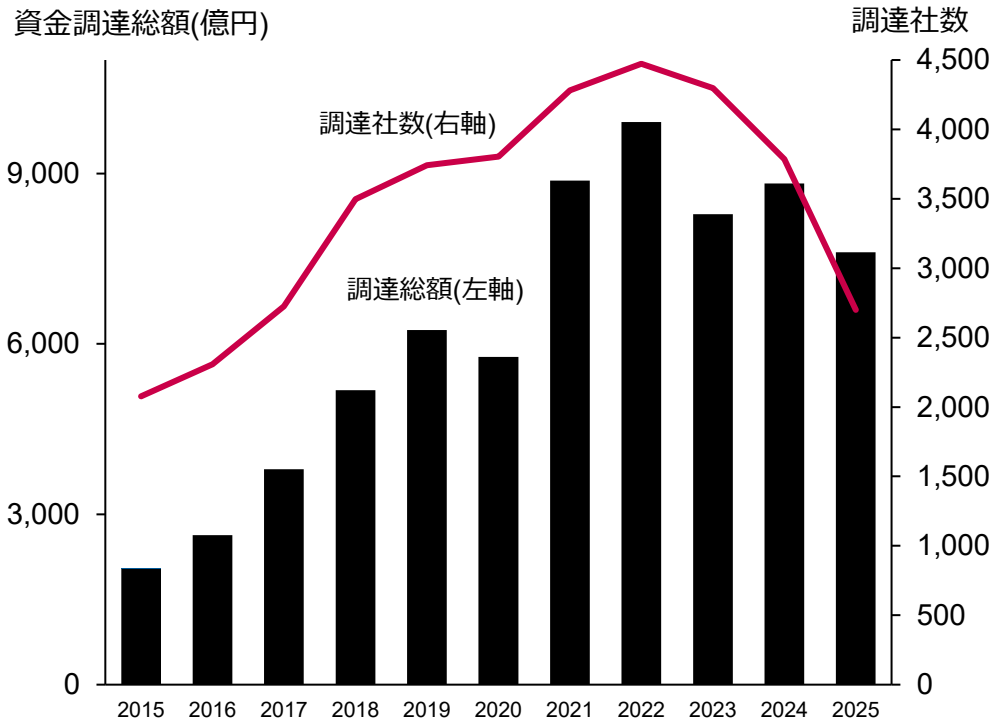
- 2025年のファンド募集額は4,747億円となった。前年同時期の実績(3,870億円)を上回る。今後の募集活動により、2025年組成のVCファンドによる募集額は上方修正される見通し。
- GP種別にみると、2025年には独立系VCによる募集が相対的に少なかった。金融機関系VCによる募集は相対的に堅調。
- 2025年末の推定未消化コミットメント残高は1.3兆円。前年対比12%減少した。推定未消化コミットメント残高を当年のVC投資額で除した比率も4.1年に低下し、2019年当時の水準と同水準となった。

- 2025年のファンド募集額は\$66Bに留まり、引き続き低調。新興マネージャーの募集が苦戦する一方、老舗VCの募集は順調という構図は変わらず。
- IPO、M&Aによるエグジットが本格回復には至っていないため、ファンドからLP投資家への分配も低調であり、LP投資家は新規のVCファンド投資を抑制。
- VCファンドの未消化コミットメント残(ドライパウダー)は、2022年末時点で\$ 300B規模にまで積み上がったが、以降は減少傾向にある。ファンド募集が大きく減速する一方、既存ファンドが投資活動を続けたことによってコミットメントの費消が進んだ結果、ドライパウダーが減少したと考えられる。

- 2025年通年の資金調達総額は7,613億円(現時点集計)と、前年比ほぼ横ばい。(注1)

資金調達動向(年間)

参考：前年同時期計測値との比較



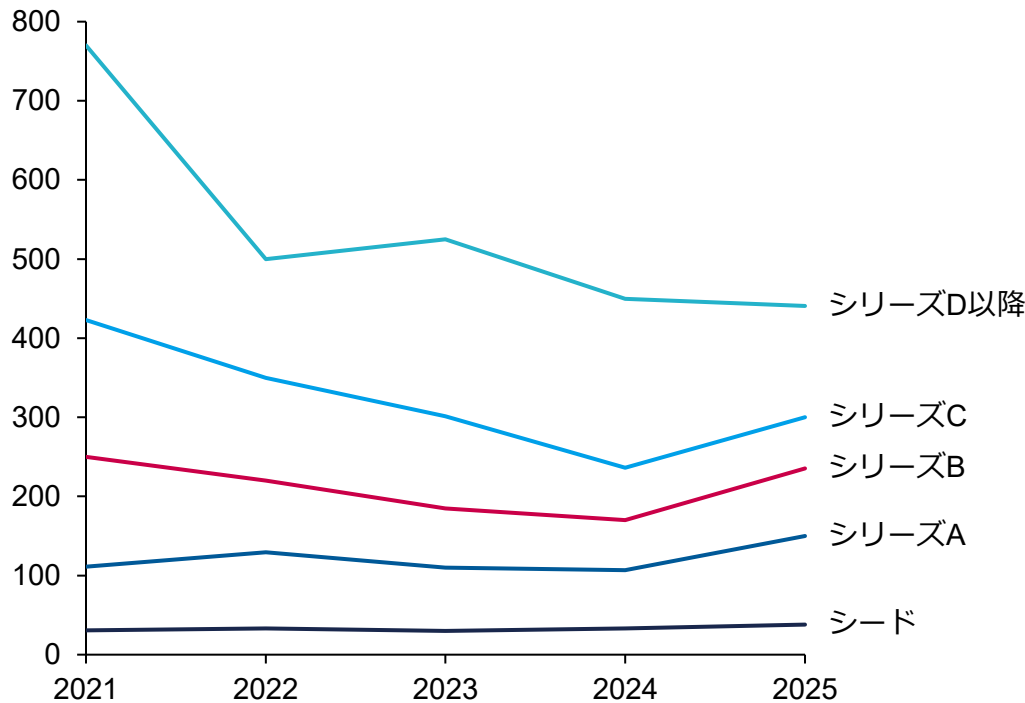
(注1)上記は現時点の集計値。今後、過去の資金調達事例が新たに判明すると、上記の集計値は過年度に遡及して改訂される。
出所: スピーダ スタートアップ情報リサーチより、JIC作成。

日本: 資金調達 | 1社あたりの資金調達額

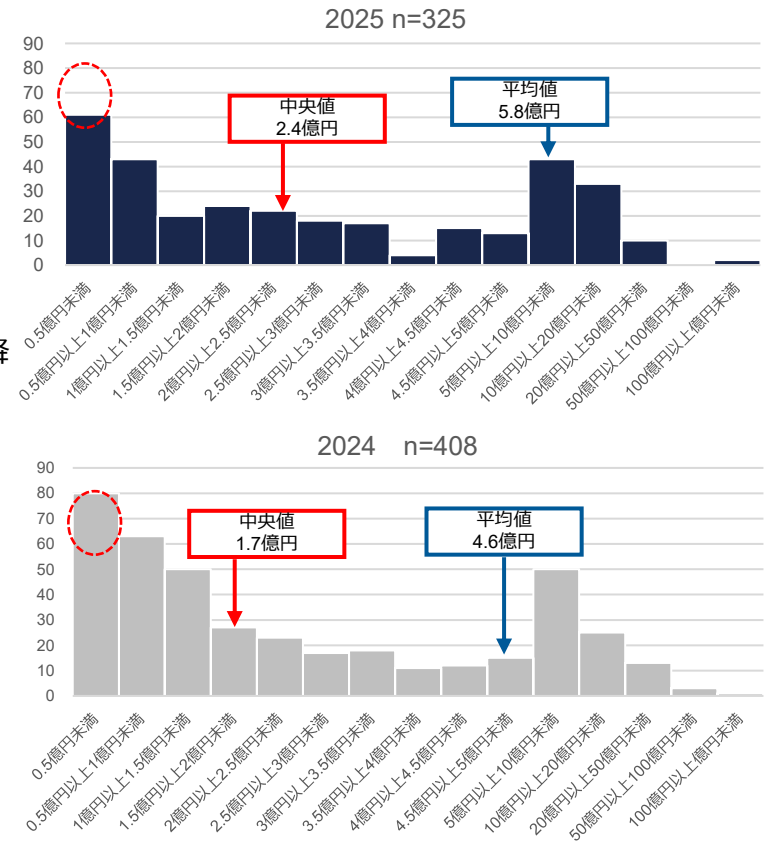
- 2025年は、シリーズAからシリーズCの1社あたりの調達額(中央値)が前年比上昇に転じた。少額の調達案件の件数が減少したことによるもの (注1)。
- 上記は投資家による出資先スタートアップの選別が進んでいる可能性を示唆するもの。

シリーズ別 1社あたり資金調達額(中央値)

(単位: 百万円)



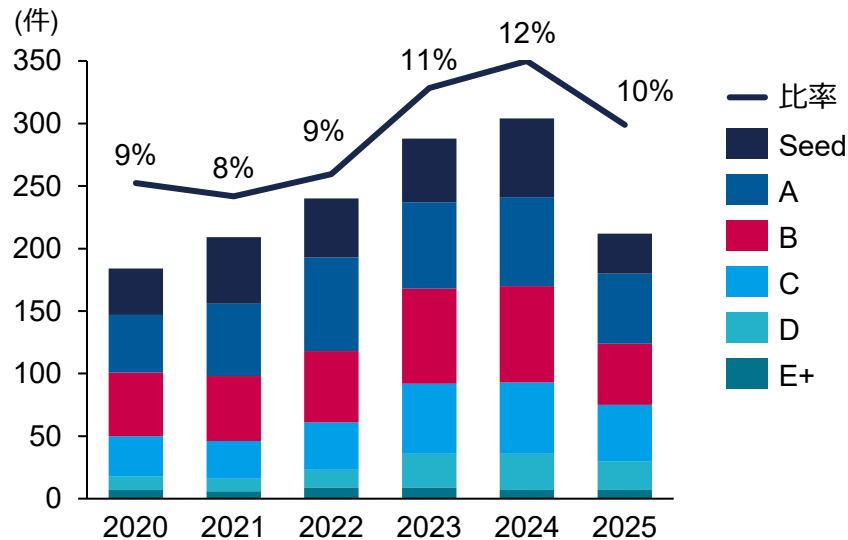
(参考) シリーズB: 1社あたり資金調達額分布 (2024年と2025年の比較)



(注1) 2026年2月2日時点データに基づき、企業、シリーズ、年ごとにデータを分解し集計。右図の赤い点線の楕円で示す通り、0.5億円未満(少額の調達案件)の件数が減少。
 (注2) 上記は現時点の集計値。今後、過去の資金調達事例が新たに判明すると、上記の集計値は過年度に遡及して改訂される。

- 前回ラウンドよりも低い評価額で調達を行ったものの比率（ダウンラウンド比率）は、2025年に低下に転じた。
- スタートアップのダウンラウンド調達比率はピークを打った可能性がある。一部のスタートアップは、ダウンラウンドに至る前に淘汰されている側面も。

ダウンラウンドの推移^(注1)



(注1) 上記ダウンラウンド件数は、前回調達時の評価額 (post) と今回調達時の評価額 (pre) を比較し、後者が低下したケースをカウントしたものである。これとは別途、巷間では、新規発行する株式の株価を前回調達時と同水準に据え置くものの、持分売却を希望する既存株主の保有株式を廉価にて提供させることによって、新ラウンドに参加する新たな投資家が支払う一株あたり単価を前回ラウンドよりも低廉にする、という実質的なダウンラウンドも発生している。本件、既存株主、投資家、発行体にとってそれぞれメリットがある。すなわち、エグジットを希望する既存株主には流動性が提供され、新ラウンドに参加する投資家はより廉価に投資を実行でき、発行体は希薄化を回避して資金を調達することができる。

上場SaaS企業のセールス・マルチプル^(注2)

- 評価倍率は過去ピークの半分以下のレベルで推移



(注2) 日本の代表的な上場SaaS企業33銘柄のPSR(実績)平均値。対象銘柄は、手問いらず、イーウェル、ユーザーローカル、プラスアルファ、HENNGE、オロ、ラクス、スマレジ、ビジョナル、ウォンテッドリー、サイボウズ、プレイド、ヒューマンテック、freee、カナミック、ドリーム・アーツ、Sansan、サイバーセキュ、Appier、インフォマート、セーフィー、ヌーラボ、フィードフォース、サインド、スパイダープラス、kubell、ヤプリ、チームスピリット、AI Inside、フォトシンス、マネーフワード、ブイキューブ

出所: スピーダスタートアップ情報リサーチ(2026年2月時点集計)、Bloombergより、JIC作成。

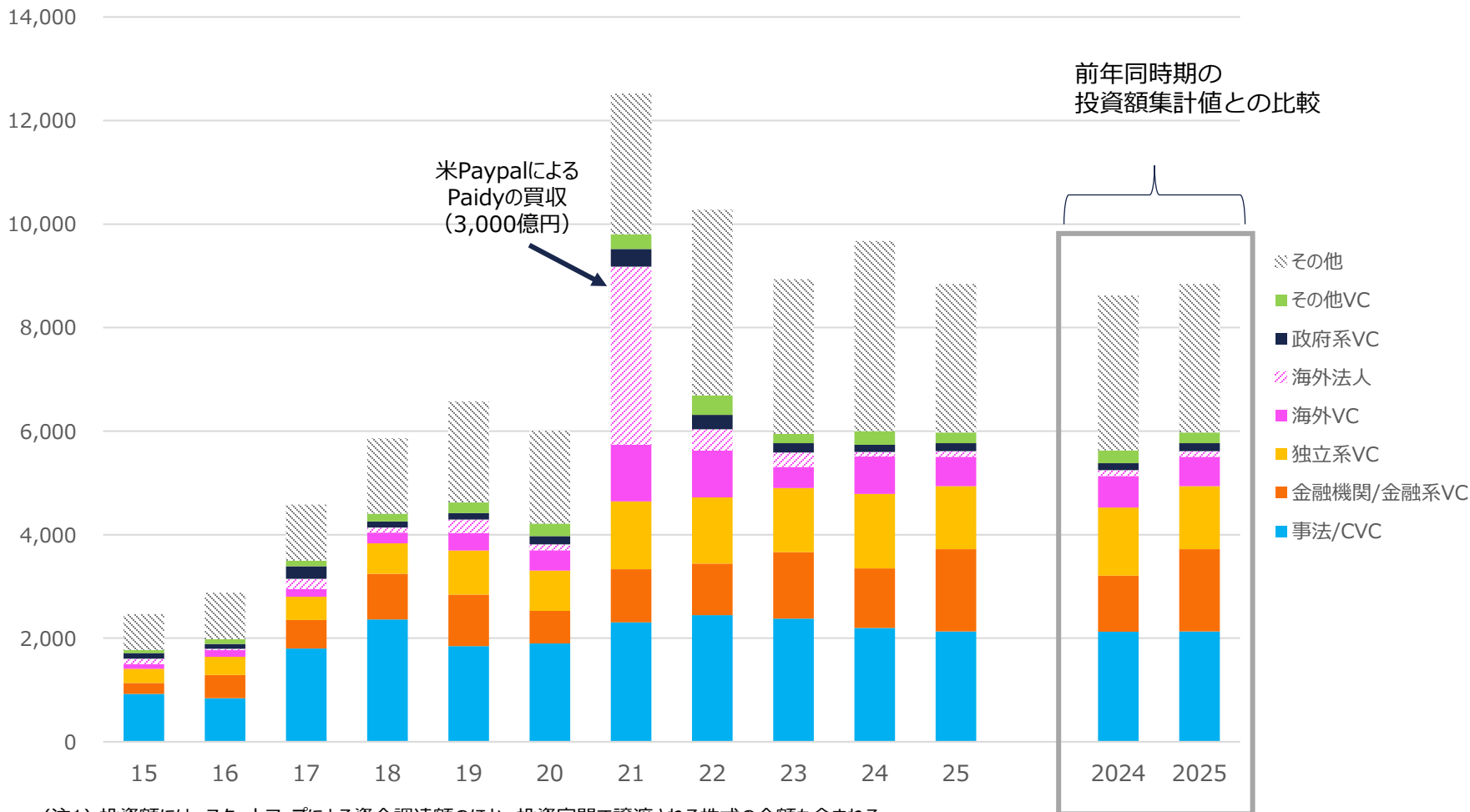
出所: BloombergよりJIC作成

日本: タイプ別投資家構成

- 投資主体別の投資額（現時点の集計値）を前年の同時期と比較すると、概ね同様の構成比。
- 金融機関・金融系VCが増加。

【スタートアップに対する投資金額：投資家タイプ別】

(単位：億円)



(注1) 投資額には、スタートアップによる資金調達額のほか、投資家間で譲渡される株式の金額も含まれる。

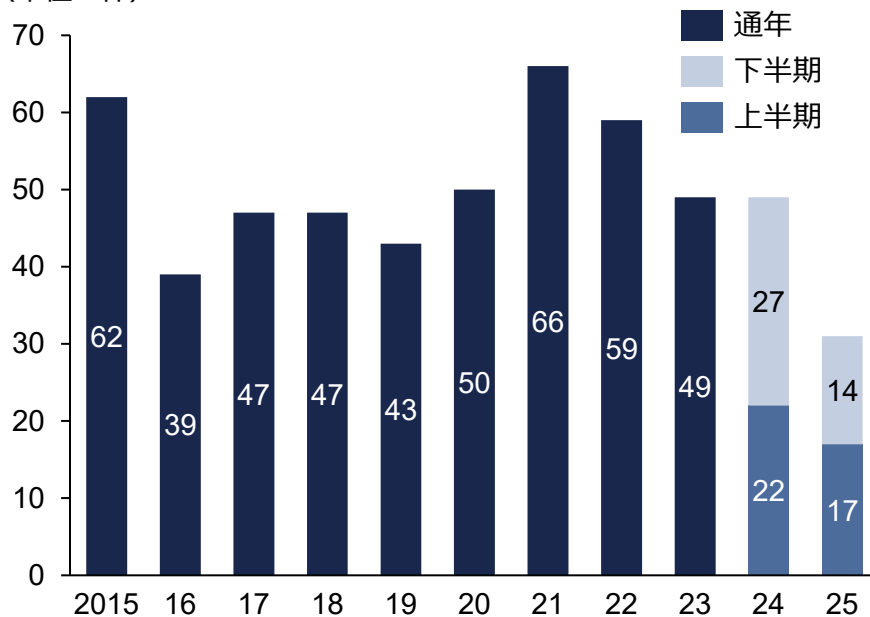
出所:スピーダ スタートアップ情報リサーチより、JIC作成。

日本: エグジット | 概要

- 2025年のIPO件数は31件(前年同期比▲18件)。特に下期は少数に留まったが、東証における上場維持基準に係る見直しも影響したものと考えられる。
- M&Aは前年と引き続き高水準。

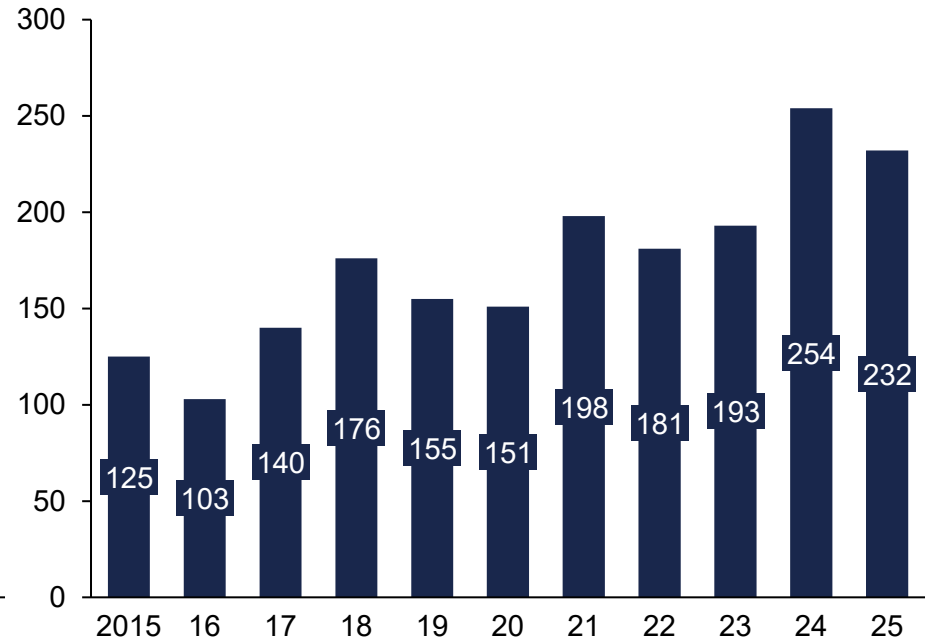
スタートアップのIPO件数(注1)

(単位: 件)



スタートアップのM&A件数(注2)

(単位: 件)



(注1) 新興市場への上場件数。上場までにvcから投資を受けたスタートアップに限定した集計。

(注2) 被買収・子会社化・主要株式取得、事業譲渡の合計。

出所:スピーダスタートアップ情報リサーチより、JIC作成。

日本: エグジット | 主なスタートアップのIPO 案件

- 2025年の主なIPOは以下の通り。公募価格ベースの時価総額が500億円以上の大型IPOは無かった。

企業名	事業内容	IPO日	新規上場状況			直近資金調達ラウンド			倍率
			(A) 時価総額 (億円) ^(注1)	公募 価格(円)	(参考) 現在株価 (円) ^(注2)	調達年月・ シリーズ ^(注3)	(B) ポスト 評価額 (億円)	(A)÷(B) 評価額 ポスト評価額	
パワーエックス	大型蓄電池を中核とするエネルギーシステム・電力供給	12/19	392	@1,220	@2,233	2025/7/28 B	550	0.7 x	
インフキュリオン	組み込み型金融・決済基盤の提供	10/24	314	@1,680	@1,503	2024/9/20 C	303	1.0 x	
ダイナミックマッププラットフォーム	自動運転向け高精度地図および位置情報ソリューション	3/27	226	@1,200	@592	2022/4/26 C	685	0.3 x	
デジタルグリッド	電力・環境価値取引および分散型電源を担う脱炭素プラットフォーム	4/22	268	@4,520	@716	2021/12/24 C	153	1.8 x	
サイバーソリューションズ	企業向けデジタルコミュニケーションおよびサイバーセキュリティ関連サービス	10/23	207	@1,380	@1,214	-	-	-	
ユーソナー	データベース&マーケティング支援業務	10/17	174	@2,000	@1,867	2022/12/26	-	-	
アクセルスペース	小型衛星の製造・運用および衛星データ活用	8/13	163	@375	@556	2023/12/29 D	258	0.6 x	
FUNDINNO	未上場企業エクイティプラットフォーム事業の運営等	12/05	143	@620	@934	2025/1/23 E	278	0.5 x	
ウェルネス・コミュニケーションズ	健康管理SaaSを基盤とするヘルスデータプラットフォーム	6/23	135	@2,480	@1,005	2023/3/27	-	-	

(注1) 公募価格をIPO直前の発行済株式数に乗じて算出したもの。

(注2) 2026年2月9日時点の株価。

(注3) シリーズはスピーダ定義による。

出所: JPX新規上場会社情報を基にJIC作成, 各社有価証券報告書・半期報告書・四半期報告書, EDINET, スピーダスタートアップ情報リサーチより, JIC作成。

日本: エグジット | 主なスタートアップの M&A案件

- 2025年の主な買収案件は以下の通り。100億円を上回る大型買収が3件あった。

買収対象	事業内容	買収公表日	買収状況 (A)			直近資金調達ラウンド (B)		倍率 (A)÷(B)
			取得価額 (億円) (比率)	評価額 (億円) (注1)	買い手	調達年月・ シリーズ	Post 評価額 (億円)	倍
UPSIDER	法人向けカード/企業向け決済ソリューション	7/29	約460* (約70%*)	657*	みずほ銀行	2024/10/21 E	762	0.9 x
レナリスファーマ	腎臓病管理の改善を可能とする治療薬の開発	10/24	150 (100%)	150	中外製薬	2024/7/17 A	119	1.3 x
Thinkings	採用管理システム/採用支援ソリューションを提供	10/1	140 (100%)	140	ビズリーチ	2022/6/30 B	91	1.5 x
アクシスルート	クラウド型電子薬歴・アクシスの持株会社	1/23	79 (100%)	79	メドレー	2023/2/28 B	57	1.4 x
ゆめみ	システム開発・制作・コンサルティングの内製化支援	12/1	37 (49.8%)	74.3	アクセンチュア	2018/7/3 -	16	4.6 x

(注1) 取得価格、比率を前提とした単純推計値。

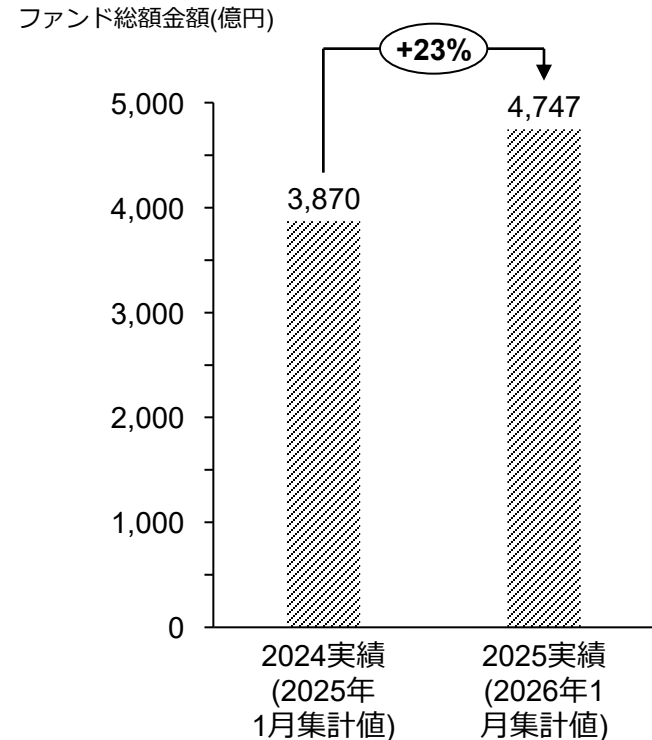
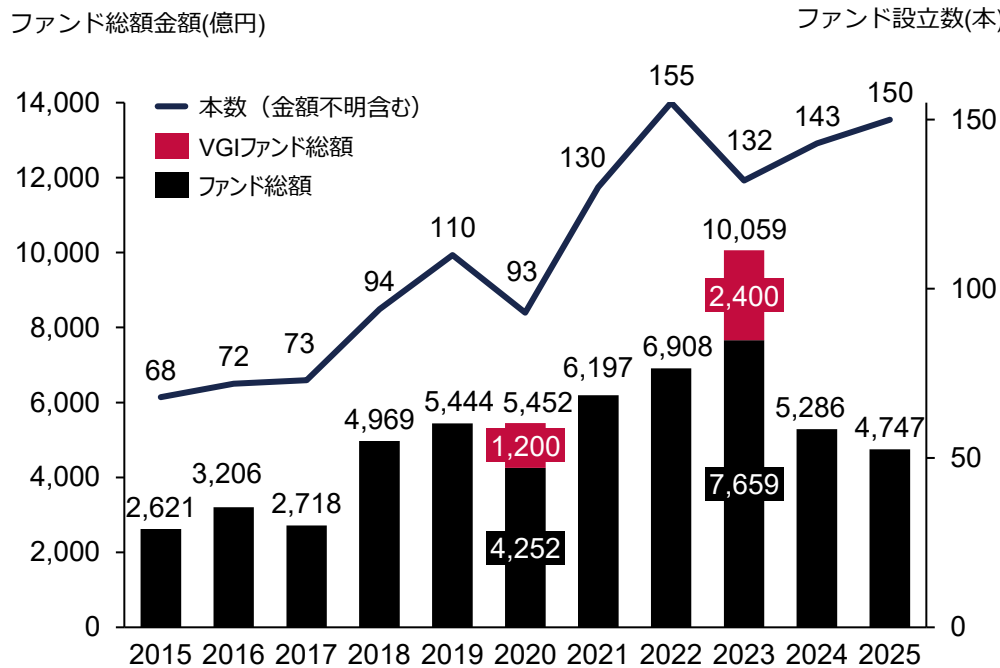
出所:スピーダ スタートアップ情報リサーチ(2026年2月9日時点)、報道、適時開示より、JIC作成。

日本: ファンドレイジング | 概要

- 2025年に組成を開始した国内VCファンドの募集済金額は4,747億円。前年同時期の実績(3,870億円)を上回る。
- 今後の募集活動により、2025年組成のVCファンドによる募集額は上方修正される見通し。

ファンドレイジング推移・設立年別 (注1, 2)

参考：前年同時期計測値との比較



(注1) 2020年、2023年には産業革新投資機構(JIC)傘下のJICベンチャー・グロース・インベストメンツ(JIC VGI)が設立したファンド(1,200億円、2,400億円)が含まれている。特に2023年は全体に占める割合が約1/4と大きいため、これを除いたベースで水準変化を確認している。

(注2) 上記は現時点における集計値(ファンド設立年別)。過去に設立されたファンドの募集が行われる都度、上記集計値も改訂される。集計対象は、国内スタートアップへの投資を中心に行うファンド。

出所: スピーダ スタートアップ情報リサーチ (2026年1月時点集計)より、JIC作成。

- 独立系の運営会社による大型ファンドは少数に留まった。

2024年のVCファンド募集・上位ファンド

★ 独立系VC

ファンド名 (運用会社名)	ファンド 額 (億円) (注1)	募集 開始月
グローバル・ブレイン 9号★ (グローバル・ブレイン(株))	325	2024/04
ジャパン・プライベート・エクイティ・オポチュニ ティ 2024★ (WMパートナーズ)	300	2024/09
大和ハウスグループ (大和ハウスベンチャーズ(株))	300	2024/01
Coral Capital IV★ (株)Coral Capital)	250	2024/04
ファストトラックイニシアティブ 4号★ (株)ファストトラックイニシアティブ)	200	2024/07
B Dash Fund 5号★ (B Dash Ventures(株))	200	2024/10
日本郵政キャピタル 1号 (日本郵政キャピタル(株))	200	2024/03
Incubate Fund VI★ (インキュベイトファンド(株))	184	2024/01
X&KSK I ★ (X&Management Japan合同会社)	153	2024/02
Spiral Capital Japan Fund 3号★ (Spiral Capital(株))	150	2024/04

2025年のVCファンド募集・上位ファンド

★ 独立系VC

ファンド名 (運用会社名)	ファンド 額 (億円) (注1)	募集 開始月
UTEK 6号★ (株)東京大学エッジキャピタルパートナーズ)	461	2025/04
ZVC 2号 (Z Venture Capital(株))	300	2025/01
SGP NEXUS (SOMPO Growth Partners(株))	300	2025/02
三菱UFJキャピタル 10号 (三菱UFJキャピタル(株))	300	2025/04
Angel Bridge Unicorn Fund 3号★ (Angel Bridge Unicorn Fund 3号有限責任組合)	260	2025/06
Olympus Innovation Ventures Fund II (Olympus Innovation Ventures, LLC)	235	2025/12
DNX Partners IV★ (DNX Ventures Partners IV)	217	2025/03
ALPHA-1★ (株)alpha)	200	2025/05
MF-GB 3号 (グローバルブレイン(株))	150	2025/10
富士通ベンチャーズファンド 2号 (富士通ベンチャーズ(株))	150	2025/07

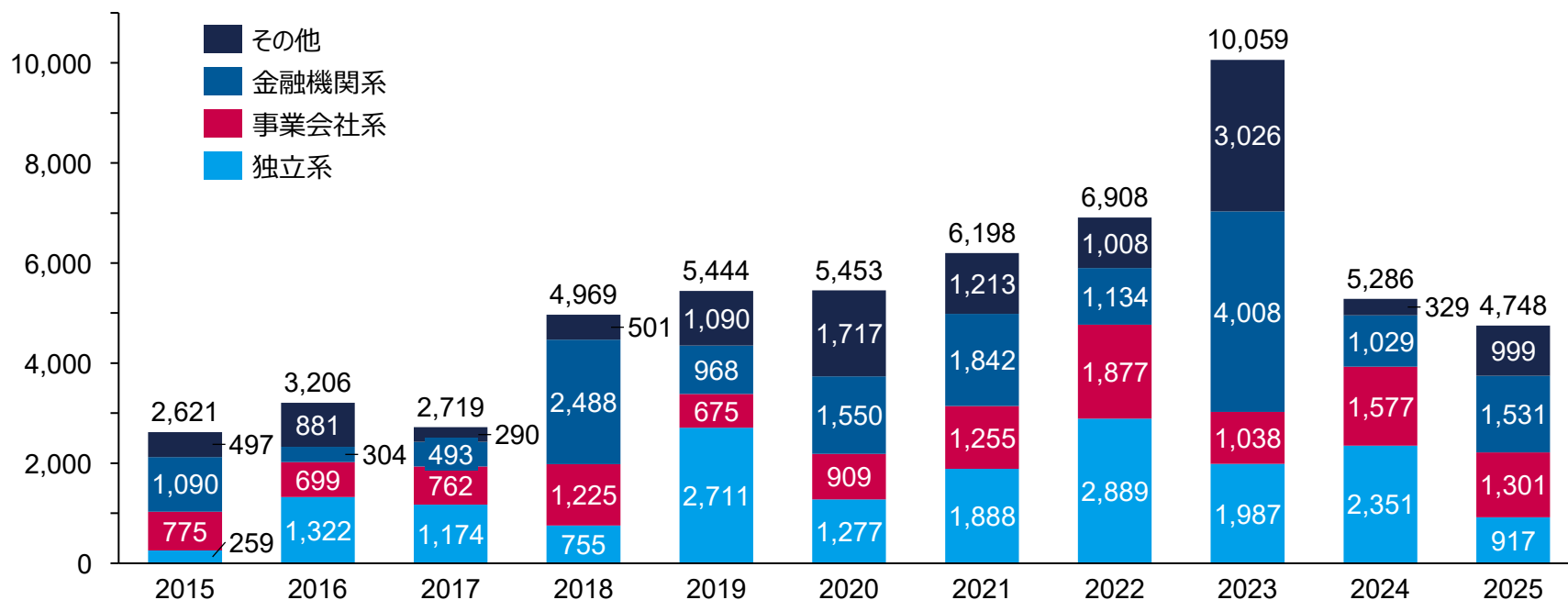
(注1) 事業会社系・金融機関系CVC等を含む。ファンド設立年別に募集済金額を集計。
出所: スピーダスタートアップ情報リサーチ (2026年2月10日時点データ)より、JIC作成。

出所: スピーダ スタートアップ情報リサーチ

- GP種別にみると、2025年上半期には「独立系」の募集が相対的に少なかった。「金融機関系」のファンド募集額が相対的に堅調。

GP種別のVCファンド額 推移

(単位: 億円)

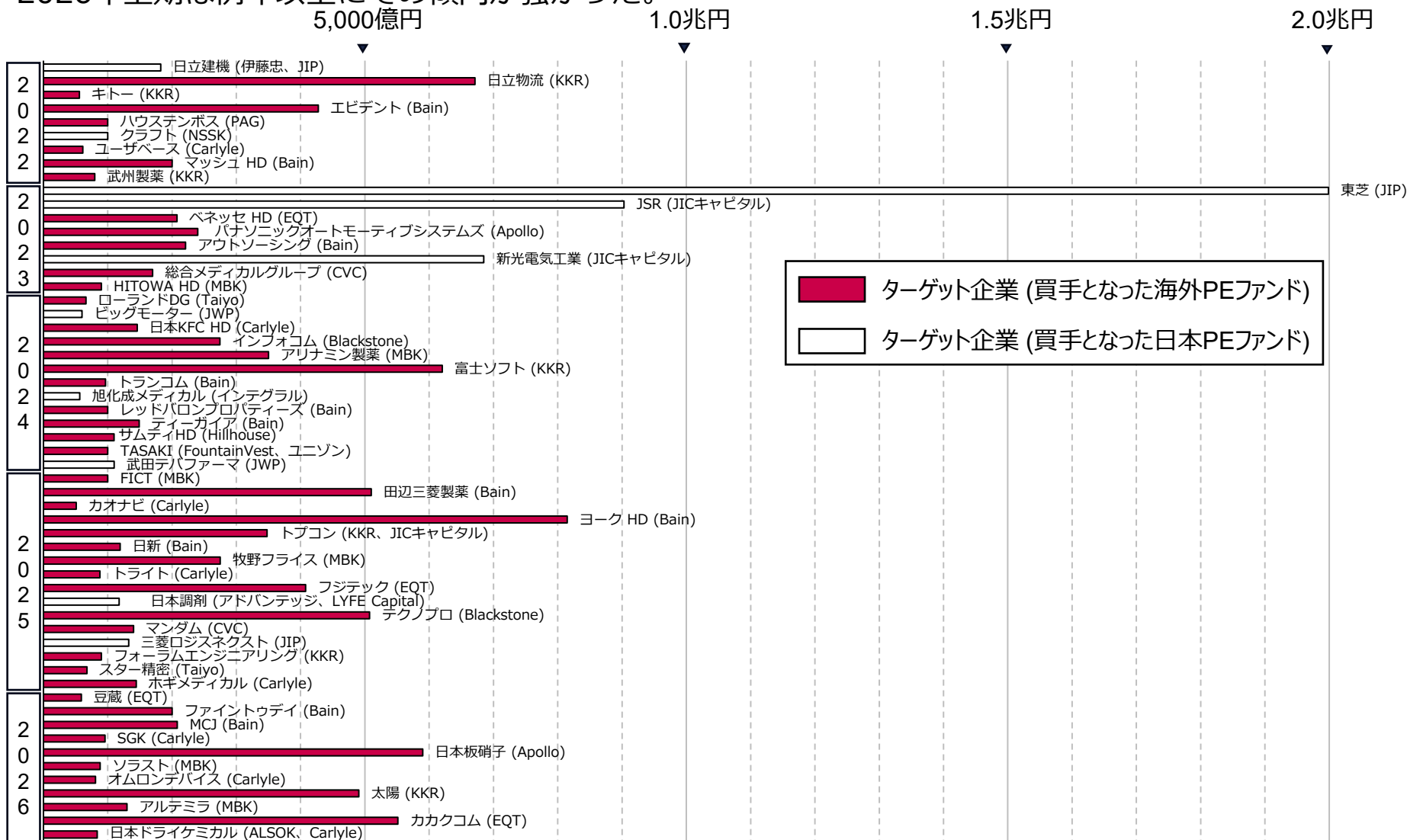


出所: スピーダスタートアップ情報リサーチより、JIC作成。

(参考) 2021年以降の大型PE投資 (金額500億円以上)



- 歴史的に、日本企業に対する大型PE投資の買手のほとんどは海外PEファンドが占めている。
- 2026年上期は例年以上にその傾向が強かった。

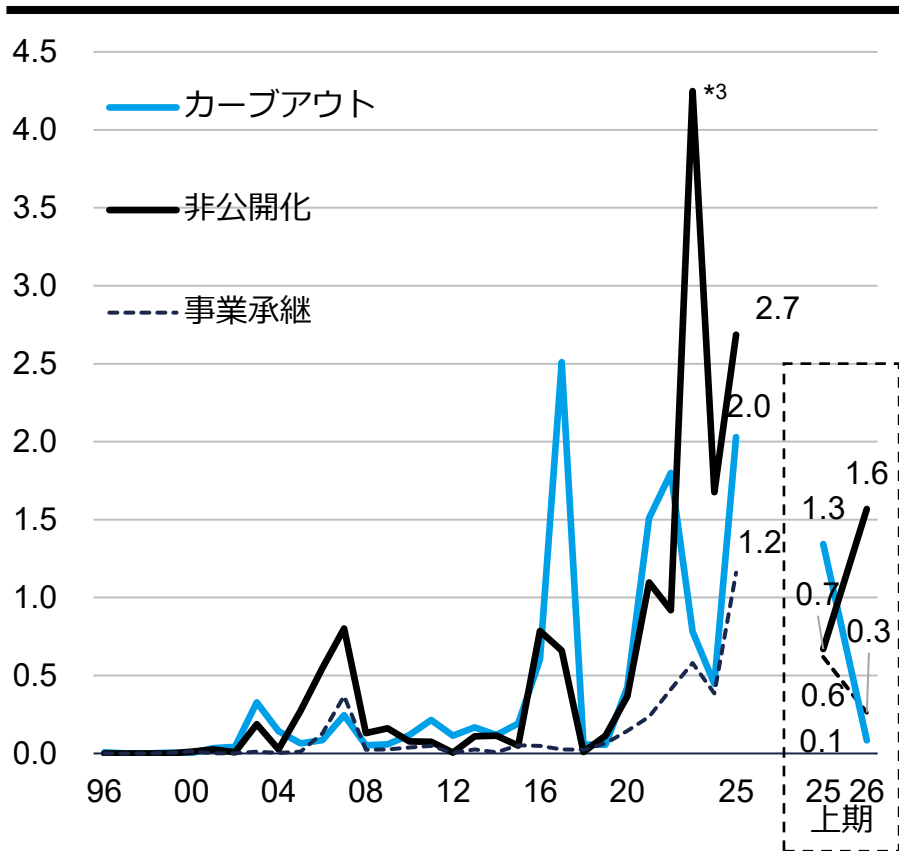


出典: 各社公表資料、各種報道によりJIC作成

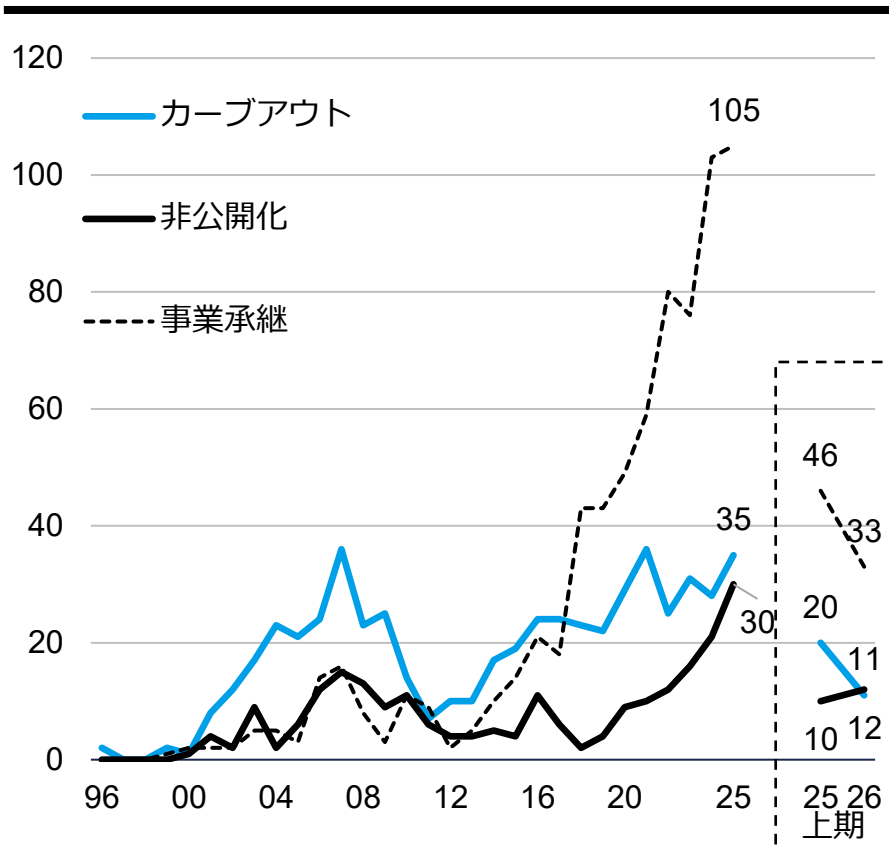
投資テーマ別の傾向 (カーブアウト・非公開化)

- 非公開化は前年同期比でみて金額/件数ともに増加。ガバナンス改革やアクティビストの圧力を受けてPEファンドによる非公開化を選択する企業が引き続き増加している模様。
- カーブアウトは前年同期比でみて金額/件数ともに減少。500億円超の大型案件は1件のみ。

金額*1,2 単位：兆円



件数*1 単位：件



*1: ターゲットが不動産・ホテル業種の案件、アクティビストのマイノリティ投資案件、ベンチャー投資案件、株式持ち合い案件を除く。公表日ベースで集計。2026年5月19日時点。

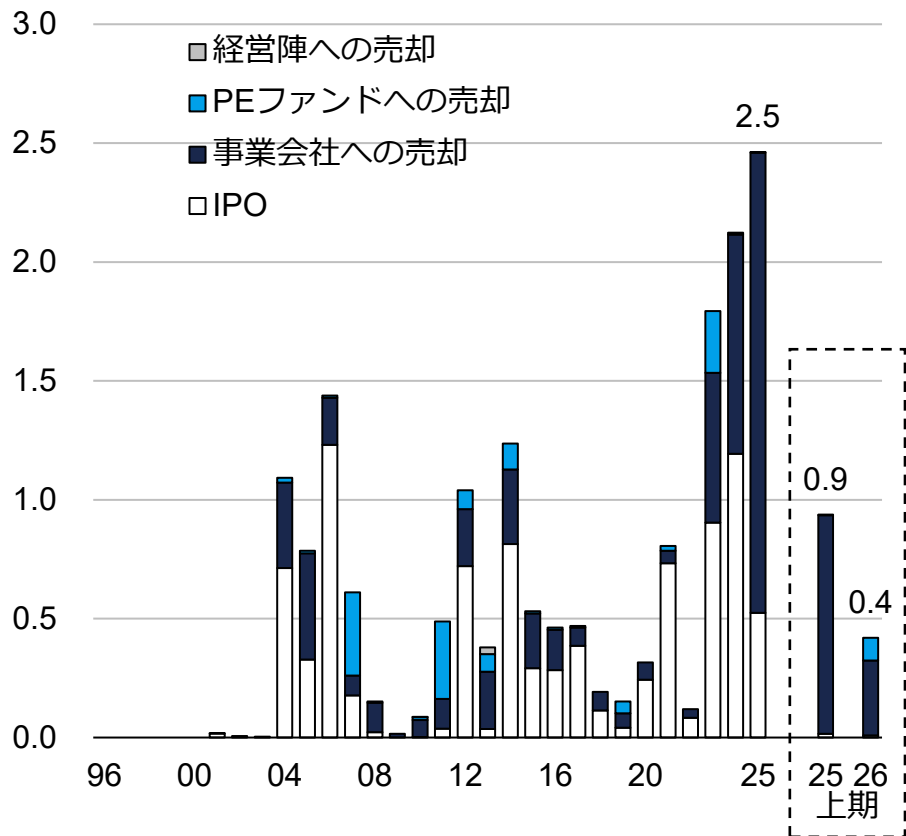
*2: 金額がプレスリリースなどで公式に発表されていない場合を除く。

*3: 2023年の主な非公開化案件は、東芝 (買手: JIP、案件規模: 2兆円)、JSR (買手: JICキャピタル、案件規模: 9,039億円)、新光電気工業 (買手: JICキャピタル、案件規模: 6,849億円)。

- PE投資のエグジット*1件数(M&AとIPOの合算)は60件。過去最高であった前年を上回るペース。
 - うちM&Aによるエグジット件数は58件。事業会社への売却が大半。ファンド間売買は少数。
 - またIPOエグジット件数は2件。500億円超の大型IPOによるエグジットはなし。
- 金額面では、500億円超の大型のファンド間売買が3件発生した(金額は一部非公表)。

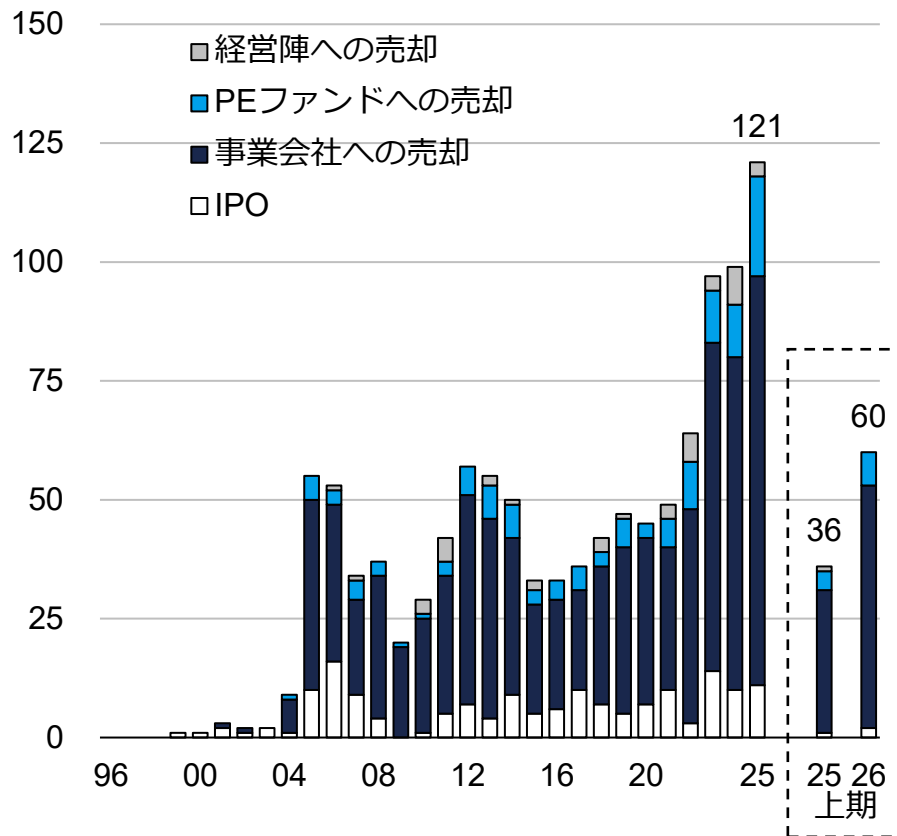
金額*2,3

単位：兆円



件数*2

単位：件



*1: 投資先ポートフォリオ企業の一部事業の売却など、パーシャルエグジットを含む。

*2: IPOは完了ベース。その他は公表ベース(2026年5月21日時点)。いずれも不動産・ホテル案件を除く。

*3: 金額が発表されていない場合を除く。

出典: PitchBook, a Morningstar company、レコフデータのMARR Proを基にJIC作成

PE投資の大型エグジット案件 (2026年上期: 金額上位10件)



- M&Aによる大型エグジットは、PEファンドへの売却と内外の事業会社への売却が多かった。
- IPOによる大型エグジットは発生せず。

	ターゲット (業種)	エグジット手法	PE投資家	案件規模*1	投資期間	売却先
1	ファイントウデイ HD (化粧品、日用品)	PEファンドへの売却	CVC	非公表 (2,000億円)	5年	Bain
2	アルテミラ HD (アルミ製品)	PEファンドへの売却	Apollo	非公表 (1,300億円)	5年	MBK
3	リガク HDの持分27%*2 (光学機器)	事業会社への売却	Carlyle	1,129億円	-*2	米Onto Innovation
4	SGK HD (仮設機材レンタル)	PEファンドへの売却	オリックス	958億円	6年	Carlyle
5	岩崎電気 (光源機器)	事業会社への売却	Carlyle	703億円	3年	スタンレー電気
6	センクシア (建築資材)	事業会社への売却	Lone Star	690億円	4年	ノーリツ鋼機
7	C-United (カフェチェーン)	事業会社への売却	ロングリーチ	441億円	8年	コロワイド
8	KANAMEL (映像制作)	事業会社への売却	Carlyle	393億円	5年	日本テレビ HD
9	豆蔵の持分61%*2 (ソフトウェア)	PEファンドへの売却	インテグラル	360億円	-*2	EQT
10	トライト一部事業 (建設派遣 事業)の売却	事業会社への売却	Carlyle	294億円	-*3	コプロ HD

*1: 括弧内は報道ベースの金額。

*2: すでにIPO済み。

*3: 事業の一部または持分の一部の売却。

注意事項

- 当資料は、JICグループの投資活動を説明するために作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は、特定の金融商品等の取得・勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料に掲載されている情報は、当資料の作成日時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料の作成には万全を期していますが、利用者がこの情報を用いて行う一切の行為（この情報を編集・加工した情報を利用することを含みます）について、当社は何ら責任を負うものではありません。
- 当資料に掲載されている内容の著作権は、当資料に記載された関係者ないし当社に帰属しており、目的を問わず、無断で複製、引用、転載等を行うことはできません。